

## 第4章 講座別にみた全教員の教育研究活動

### 1 講座体制の考え方

本学教育課程の教育組織は、本学の教育理念、教育目標を達成するために、大きく基礎科目を主に担う教員グループ、専門支持科目を主に担う教員グループ、専門科目及び総合科目を主に担う教員グループの3つの大きな編成になっている。ただし、基礎科目（必修9単位、選択12単位、計21単位）を担う教員グループ13名のうち、本学専任教員は5名である。

本学専任教員組織は、この5名を含め、専門支持科目を担う教員10名と専門科目を担う教員36名（計56名）から成り、以下のような講座制を設けている。

各講座は、この領域に期待されている教育内容についての教育内容の構成と成果の評価などに関する教育運営・管理及びこの専門領域に占められている教育研究を進めている。

講 座	主 な 役 割
看護基盤科学 人間と情報グループ 人間と生活グループ 医学・医学臨床グループ	基礎情報科学、社会科学ならびに生物・医学、臨床医学等々の学体系の学びを通して、看護学の理解を深める。また、専門教育へのコラボレーションを通して、本学教育全体に関与する。
基礎看護学	・看護学及び看護活動の基本原理に関する領域について教授すると共に、実習、専門ゼミナール、卒業研究などの学習支援を行なう。 ・看護基盤科学系との教育的ネットワークを通して、このグループの教員が看護学教育に参加することを支援する。
実践基礎看護学	看護技術や看護管理など看護学の実践を具体化する基礎的技術と実践方法について系統的学習し、技術が身につくように訓練する。また、専門ゼミナール、卒業研究などの学習を支援する。
母子看護学	女性や小児期のライフステージにおける固有の健康問題のアセスメントと看護の実践に必要な知識、技術について講義、演習、実習による系統的課題解決への学習を担う。また、専門ゼミナール、卒業研究を指導する。
成人看護学	生活習慣病に対する予防看護の理論と実際及び疾病の急性期、慢性期の回復過程やターミナルケアについて講義・演習・実習による系統的課題解決への学習までを担う。また、専門ゼミナール、卒業研究を支援する。
広域看護学 精神看護学 老年看護学 地域看護学	地域の人口動態と地域固有の文化や産業、教育等の生活基盤が集団としての地域の健康に及ぼす要因ならびに人間の精神や老人の健康に及ぼす社会の文化的影響や制度上の影響をふまえたアセスメント法や看護活動を進めるための知識・技術を講義・演習・実習による系統的課題解決への学習までを担う。また、専門ゼミナール、卒業研究を支援する。

## 2 看護基盤科学講座

### 1) 看護基盤科学講座系講座共通の教育活動

#### (1) 基礎ゼミナール (第1、第2セメスター、必修、2単位)

基礎ゼミナール (Seminar for Basic Nursing Science)	1 学年	前期・後期	必修	2 単位
氏名：大友康博、渡辺弘之、野地有子、橋本明裕、中村博生、山本淳子、杉田 収、中野正春、関谷伸一、吉山直樹				
到達目標：基礎ゼミナールの目的は、専門職が生涯にわたる学習活動に不可欠な基本的な知的探求技術（アカデミックスキル）の訓練を行ないながら、人間の生物学的・社会的存在としての特質を見極め、学生同士や教員との人間的な交流を通じて個性を尊重し相互に刺激し合う関係を確立し、究極は学問探究の面白さを深く自覚して、その推進者となる資質を獲得する。				
<p>授業概要：10人の各教官に、各9～10名の担当学生が配置されるセミナー形式である。実際は、チュートリアル（少人数教育）で、全員参加で討論・調査・相談・報告（発表）を繰り返しながらステップ・アップする方式を採用している。採用される課題（テーマ）は、教員の専門性の違いにより、多岐にわたるが、おおむね以下のような範疇が該当する。</p> <p>①人体の構造、②臨床分析化学、③実験医学、④医学・医療のトピックス、⑤IT、⑥異文化交流、⑦言語習得方法、⑧生体情報・環境測定、⑨地域学習、⑩障害者福祉</p>				
<p>授業計画：学習活動に不可欠な基本的な知的探求技術（アカデミックスキル）の訓練には、下記のものが含まれる。</p> <p>①文献・書籍検索、②インターネット検索、③情報の整理方法、④研究機器・実験器具の取り扱い・操作方法、⑤討論の方法、⑥発表の方法（口演・展示）、⑦研究の整理方法、⑧論文・報告書の書き方</p> <p>各ゼミナールの課程には、共通してこれらのアカデミックスキルの学習を指導され、また、習得するための訓練内容が含まれる。</p>				
<p>評価方法、評価基準：各ゼミナールの専門性によって、多少の評価手順の差はあるが、共通して、①行動評価、②成果評価、の部分に分けられる。その配分（評価基準）は各教員が決定して、ゼミナールの開始時に公示する。</p>				

#### (2) ふれあい実習

本学の「ふれあい実習」(第2セメスター、1単位 必修)の特徴は基礎看護学講座のコーディネーションのもとで看護基盤系教員と基礎看護系教員全員が少人数の学生を支援することである。

##### ① 実習到達目標

- ・地域で生活している人々との交流がもてる
- ・地域で生活している人々の日常生活の成り立ちに目をむけることができる
- ・地域で生活している人々の価値観の多様性に気づくことができる
- ・地域の特性を知ることができる
- ・地域特性が人々の生活に与える影響に気づくことができる
- ・看護の対象が生活者であることに気づくことができる

## ② 実習の目標

新潟県内市町村での地域の人々との交流を通して、生活者の視点に立って、地域で暮らす人々の日常生活の成り立ちや、生活の基盤となる価値について考える。

## ③ 学習課題

- ・地域で生活している人々と交流し、人々の生活基盤となる価値観について考える。
- ・様々な地域の特性に触れ、そのことが人々の生活にどのように影響しているのかを学ぶ。
- ・自らが生活者の視点に立って、地域に暮らす人々がより良く生活するために看護が果たす役割について考える。

## ④ 授業概要

新潟県市町村（約25ヶ所）で2泊3日のホームステイを行なう。

## 2) 人間と情報グループが主担する教育・教育管理活動

### (1) 教員構成

中村博生助教授                  橋本明浩助教授  
山本淳子講師

### (2) 授業について

#### ① 英語学習

英語の読解力・会話力・記述力を向上させるため、「読解」では、アメリカの医療問題や疾病の症状・治療等について英語で概観できる教材を精選し活用し、「会話」では興味別クラス編成を行い、ゲストスピーカーとしてのアシスタント・ランゲージ・ティーチャーを通して、よりオーセンティックな会話を訓練している。「記述」では、1年生ではパラグラフィティングの基礎を、2年生ではパラグラフィティングの応用を行えるように工夫している。過去2年間、看護学生の看護英会話と読解力向上に効果的な教材開発に力を注ぎ、学生の臨床における英会話能力と英文の読解意欲を高める指導方法に力点を置いて研究を行ってきた。今後は、看護学生の英作文能力向上のための指導内容や方法の工夫を行い、これらの教材や指導方法を看護学生のニーズに応じて開発していきたいと考えている。

また、ESP(English for Specific Purposes)研究会での研修・活動を通して、異文化看護・医療・看護倫理に関する教材開発を続けるとともに、英語資格試験での高得点を目指すためのプログラムを開発する。さらにコンピュータ・サーバーに英語プレゼンテーション・ディスカッション指導の内容をまとめてオリジナルのデジタル教材を作り学生がいつでも自由に閲覧できるような自主学習システムを構築する。

情報科学に関しては、現実の様々な制約を数式化定式化し、目的関数の最適化の強靭性の定性的、定量的な安定性を研究することがメインテーマであるが、実際のデータをもとにした研究の継続も図る予定である。

#### ② 情報学習

「情報科学」は、情報リテラシーとコンピュータエシックスの2本の基盤に加えて、情報科学と情報処理の理解を深めることにより、将来必要となる行動、思考の方式までを目標としている。1年生では、基本的なりテラシー取得と情報処理のもつ光と影の部分の学習させ、基本的な情報処理の原理と部分操作等を学ぶ。3年生では論文発表に必要な正しい統計処理、保健統計の考え方を学ぶこととしている。

〔開講教科目〕

基礎ゼミナール	2単位	30時間	第1及び第2セメスター	共通
ふれあい実習	1単位	45時間	第2セメスター	共通
英語表現法Ⅰ 会話	2単位	60時間	第2セメスター	中村
英語表現法Ⅰ 読解	2単位	60時間	第1、第2セメスター	中村
英語表現法Ⅱ 記述	2単位	60時間	第3、第4セメスター	中村
英語表現法Ⅰ 会話	2単位	60時間	第1、第2セメスター	山本
英語表現法Ⅰ 記述	2単位	60時間	第1、第2セメスター	山本
英語表現法Ⅱ 会話	2単位	60時間	第3、第4セメスター	山本
英語表現法Ⅱ 読解	2単位	60時間	第3、第4セメスター	山本・中村
情報科学	2単位	30時間	第1、第2セメスター	橋本
情報処理演習	2単位	30時間	第2セメスター	橋本
保健統計演習	2単位	30時間	第5セメスター	橋本
保健統計学	2単位	30時間	短期大学地域専攻科	橋本

(3) 教学管理・学内管理

中村博生は、入試委員会副委員長として入試業務にあたった。入試問題の基本的な方針立案に参加し、入試問題の体裁や傾向などの枠組み作りを行った。面接試験については、より効率的で妥当性の高い受験生の評価、評定の方法を検討した。

橋本明浩は、情報ネットワーク委員会の委員長として学内のコンピュータ関係の保守について提言を行ってきた。橋本は、広報委員会委員としても活動している。

(4) 現状と課題

英語については、学生個人の特性をふまえて、個に即した指導を試みることを課題としている。特に会話では、国際的な看護交流が現実となりつつある中で、学生の英語運用能力を高めるためには、異文化理解と交流をとおした会話能力の訓練が必要であることから、本学専任のALT (Assistant Language Teacher) の招聘が強く望まれる。記述では、個人の能力に即した指導内容・方法、評価方法の吟味が必要である。また、できるだけ早い時期に次年度の授業の細部にわたる計画を練り、契約となるシラバスから外れない授業を心がける。

誰にとっても疑問の残らない授業を展開したい。社会で役に立つ英語力を身につけさせるために、看護に関する知識や語彙を英語を通して学習するESP (English for Specific Purposes) をさらに積極的に導入する予定である。

情報科学については、看護学生に必要なコンピュータリテラシーを取り巻く情報環境の質的な改善と適切な教材の精選が問われている。これにむけて鋭意教材の開発に取り組んでいるが、ハードウェアの整備に関しては新潟県の財政的な困窮等の諸般の問題があり解決策を模索している。

情報処理に関しては、1クラス40人を前提とした短期大学の施設設備を引き継いだ形式であるが、新潟県の財政事情など諸般の事情により全面的な整備を行うことができないでいる。しかし、鋭意工夫等の学内努力を継続し、より効率的（インターネット回線の見直し、サーバ機器見直し、キャンパスライセンス等詳細は 情報ネットワークを参照）な運営を行うように努力している。とくに情報機器の操作は、現場、教育上でのEBN/EBMに必要な不可欠なものであり、周囲の諸先生の理解と協力で着実に進歩している。反面、端末機器の増加とその高度化の問題等があり、専従の（現状は嘱託員1名）職員の充実が焦眉の課題である。

## (5) 研究活動

### ①大学の特別研究費に基づく研究活動の現状

中村博生. 現代におけるヒューマニティと『環境』の関係について. 新潟県立看護大学学長特別研究費研究報告書 2004年6月.

山本淳子、加藤正子. 異文化看護 (Transcultural Nursing) の視点を取り入れた看護英語教材の開発. 新潟県立看護大学学長特別研究費研究報告書 2004年6月.

### ②学外公募研究補助金に基づく研究活動の現状

文部科学省科学研究費助成課題研究

山本淳子. DVD映画を用いたCALLシステムによる看護学生のための英語教育手法の研究. 申請2003年11月、交付予定平成16年度～17年度.

## (6) 研究業績

### 〔著書〕

中村博生. 看護英会話. 考古堂書店 2002.

中村博生. 看護英会話CD付. 考古堂書店 2003.

山本淳子(共著)ホームステイで困らない英会話(第1版). 三修社 2003年7月.

山本淳子(共著)ホームステイで困らない英会話—エマージェンシーナビROM付き(第2版). 三修社 2003年12月.

山本淳子(共著). Health Talk 実践的看護英語の基礎(第1版). ピアソン・エデュケーション 2003年3月.

橋本明浩. キャンパス情報リテラシー(共著)(第4版). B5版232ページ、ISBN 4-7856-3138-4、株式会社昭晃堂、2002.

### 〔論文〕

中村博生. Material Development for Nursing Students in English Class -An Article in An English Newspaper Focusing on A Foreign Patient. 人間科学研究会誌2002; 5: 5-18.

中村博生. Material Development for Nursing Students in English Class -Nursing Students' Views on SARS and Each Country's Measures against It. 人間科学研究会誌 2003; 6: 45-67.

山本淳子. 異文化看護学を看護専門教育(English for Nursing Purposes)に取り入れる意義. 大学英語教育学会ESP研究会研究紀要 2003; 5: 24-30.

山本淳子(共著). 動画と解答を同期させて学ぶ英語教育by “SMILE for ME”—スタンドアローン版—. (社)私立大学情報教育協会 第11回情報教育方法研究発表会予稿集 2003: 44-45.

山本淳子(共著). Use of Movie Materials presented Through Multimedia Learning Environment. 大学英語教育学会ESP研究会研究紀要 2004; 6: 17-23.

橋本明浩. Hashimoto, Miyano and Taguri: “Maximization of Correlation under Quadratic and linear Constraints” Proc. of Bernoulli Society East Asian and Pacific Regional Conference(Hong Kong) 2003; 99.

橋本明浩.”ヘルスケア提供者のためのリソースアーカイブの構築の基盤作成について”平成14年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書 2004:53-56.

橋本明浩.”女性に関する教育プログラムの開発に関する基礎的研究”平成14年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書 2003:57-60.

橋本明浩.”制約条件付きの非線形の近さの概念の理論的な研究”平成14年度学長特別研究費研究報告書 2004:47-48.

杉田 収、橋本明浩、他."地域ケアを支える在宅環境に関する研究" 平成15年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書 2004:23-30.

橋本明浩."本学ホームページの稼働集計からみた本学への期待" 平成15年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書 2004:91-98.

中島紀恵子、橋本明浩、他."豪雪地方に暮らす後期高齢者の生涯と健康の実態(中間報告)" 平成15年度看護研究交流センター事業活動・研究報告2004:101-114.

橋本明浩."上越地域を限定とした信頼度を考慮をした看護医療系メタデータ検索システムの試み" 平成15年度看護研究交流センター事業活動・研究報告2004:129-130.

橋本明浩、吉山直樹、加藤光寶."多言語ドメインの現状と課題" 平成15年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書 2004:131-136.

橋本明浩."新潟県立看護大学におけるLinux・Apacheにおける不法アクセスの監視" 平成15年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書2004:137-145.

〔学会発表〕

中村博生. 1時間の授業を英語で行うための基礎的な研究、平成15年度上越英語科教員研修会(ECHO会) 2003. 10. 18.

中村博生. All in English を目指した中学一年生の授業、平成16年度関東甲信越英語教育学会 第28回東京大会、2004. 8. 4-5.

山本淳子(共同)英語映画を用いた看護専門教育 by "SMILE for ME" 映画英語教育学会全国大会 2003. 6月

山本淳子(共同)ニーズ分析から教材開発まで 大学英語教育学会(JACET)全国大会 2003. 9月

山本淳子. CALLシステムと映画を利用した看護学生のための授業 大学英語教育学会ESP研究会 聖路加大学 2003. 11月

山本淳子(共同). 動画と解答を同期させるマルチメディアシステム利用のEGNP(看護学生のための英語)語学教育研究大会 信州大学高等教育システムセンター2004. 3月

橋本明浩."Maximization of Correlation under Quadratic and linear Constraints"、ベルヌイ学会東アジア太平洋地域大会、2004.

吉山直樹、橋本明浩、他."ITを活用した在宅介護者のヘルスケアに関する効率的情報交換の検討"、第15回在宅医療研究会学術集会、2004.

#### (7) 社会活動

〔学会活動〕

(中村博生)

新潟大学教育人間科学部英語学会、国際教育交換会協議会、全国海外教育事情研究会、全国英語教育学会、関東甲信越英語教育学会(理事)、外国語教育メディア学会、コミュニケーション・ティーチング研究会、大学英語教育学会、映画英語教育学会、人間科学研究会、上越英語科教員研修会(ECHO会)

(山本淳子)

日本児童英語教育学会、日本時事英語学会、大学英語教育学会、大学英語教育学会支部関東ESP研究会、映画英語教育学会、関東英語教育学会、日本看護研究学会

(橋本明浩)

日本統計学会、応用統計学会、情報処理学会

〔その他の社会活動〕

山本淳子:国立長岡高等専門学校英語スピーチコンテスト審査員 2002年～

「英語は映画で一授業力と英語力のパワーアップ」 ワークショップ講師

新潟県立三条高校2003 12月

山本淳子:独立行政法人メディア教育開発センター(NIME)

ESP for Nursing Students by SMILE for ME

「英語メディア教材を活用した英語で教える人文系専門教育の試み」

セミナー講師 2003年9月

山本淳子:国・都道府県および公的ピア組織における研修事業への協力

中村博生:上越英語教員研修会(ECHO会)において、研修部長として上越の英語教員と共同研究や研究のための指導を行う。

中村博生、山本淳子:看護英会話セミナー、新潟県立看護大学看護研究交流センター 専門講座、2002、8.26-27.

中村博生、山本淳子:看護英会話セミナー、新潟県立看護大学看護研究交流センター 専門講座、2003、8.25-26.

中村博生:看護英会話セミナー、新潟県立看護大学看護研究交流センター 専門講座、2004、3.15-16.

橋本明浩:新潟県看護臨地実習養成講習会講師(平成14年度～平成16年度)

橋本明浩:新潟県立看護大学看護研究交流センター、看護情報処理講座講師(平成14年度～平成15年度)

3) 人間と生活グループが主担する教育・教育管理活動

(1) 教員構成

大友康博 講師

徐 淑子 講師

渡辺弘之 講師

(2) 授業について

基礎ゼミナール 2単位 30時間 第1、2セメスター 共通

ふれあい実習 1単位 45時間 第2セメスター 共通

(実習科目で説明)

地域経済論 2単位 30時間 第1セメスター 大友

保健福祉住民組織論 2単位 30時間 第4セメスター 大友

保健・医療行動科学 2単位 30時間 第3セメスター 徐

社会学 2単位 30時間 第1セメスター 渡辺

地域福祉社会論 2単位 30時間 第3セメスター 渡辺

総合科目Ⅱ 1単位 15時間 第8セメスター 渡辺

### (3) 授業の内容について

「地域経済論」では、新潟県、上越地域など1行政区域を「地域」ととらえ、その「地域」に派生する諸問題(例えば、健康問題)を社会科学(とくに経済学)の視点を持って分析、解釈できる能力を身につけることを目標とした。そして、「経済発展の影」として新潟水俣病、労働災害、職業上の疾病(過労死など)等のテーマを扱い公衆衛生学、産業保健学等、2年次以降学習する分野と関連するテーマを包含し、専門科目へ関心を持たせる「入り口」の機能を持たせるようにした。

本講義は入学前に「政治経済」等の社会科学関連科目の未履修者が十分理解可能な内容とした。また、大多数の受講者が実社会経験の乏しいため、具体的なイメージを持たせるべく、VTR等の視覚教材を利用して理解を促す工夫をした。さらに平成14年度、平成15年度は、講義レジメ、資料等を他大学の社会科学担当教官と交換し、内容等について相互レビューを実施し、質の向上を図った。平成16年度については、マクロ経済指標の見方、金融など2年次以降の専門科目と必ずしも関連しない内容については削減等を含めて見直しをする。

「保健福祉住民組織論」では、自らが組織化の主体、組織の運営主体となり、それによって生ずる課題への対応を主体的に考える実践的な講義である。具体的にはア)過去に受講者が所属した組織上で発生した課題を「ケース」として、その解決手法について全員で検討するケーススタディ、イ)新潟県上越地域に展開する様々な住民組織活動の実践者を講師とした実践報告、学習者との質疑応答、討議を実施した。ただし保健福祉に関する住民組織活動に関する教授内容は本学では複数の看護専門科目のなかで採り上げられていることから、本講義では重複を避け、経営組織論、社会教育学、行政学、政策過程論等の分析枠組みを用いた。

「保健・医療行動科学」では、「生活者」に視点を置いて保健行動および求助行動を論ずることによって、当該科目を「患者・サービス対象者の学」と位置づけ、専門支持科目として、以降の専門科目においてやしなわれる専門職者としての視点への橋渡しができるよう努力した。また、内容的に健康教育や患者教育との結びつきが深い科目であり、取り上げるトピックス等では、現業者3名によるゲスト・スピーカーによる講演とし、保健・医療分野の行動科学的知見の応用の実際を学べるようにした。ゲスト・スピーカーによるテーマ(平成15年度)は、ソーシャル・マーケティング、援助者のメンタル・ヘルス、看護職者の職業的社会化とし、それぞれ、NPO代表者、臨床心理士、看護師経験をもつ国際援助のプログラム・オフィサーを招き、好評を博した。

「社会学」では、現代における家族形成のあり方とその変化について、婚姻動機の形成、戸籍、離婚、子供の置かれた状況などの具体例について触れながら社会学による考察のあり方を学習する。この中では、ゲストスピーカーとして訪問カウンセラーから、長岡市にて不登校児童、引きこもり支援のためのフリースペース・スプーンフィールドの運営、引きこもり支援のための具体例について学習した。また、家庭内介護と女性の役割について、自己の体験を語ってもらった。

「地域福祉社会論」では、ユーザーの視点に立った福祉サービス利用のあり方について学ぶ。さらに公的年金制度や生活保護制度、介護保険制度など生活にかかわる福祉制度を身近なものとして理解していきながら、その具体的な利用のあり方について学ぶ。また自分が必要なサービスが行政によって提供されていない場合、自分たちの必要なサービスをNPO実践という視点からゲストスピーカーによる「自分でつくる福祉サービス」のためのNPO活動実践例について学習した。

「総合科目Ⅱ」は、第7セメスターに開講予定である。「情報化社会と人間の健康」という共通テーマの下に、「操作される対象」としての生命のあり方について考える。

#### (4) 研究活動

##### ① 大学の特別研究費に基づく研究活動

徐 淑子:ヘルス・コミュニケーションの考えにもとづいた健康教育の方法についての検討(14年度個人研究)

渡辺弘之:ベトナムにおけるハンセン病患者の実態についてーベンサン病院調査の結果よりー、「生きにくさ」を抱える人たちと「自分自身の回復」ー心の病を持つ人たちの文化創造ー

##### ② 学外公募研究補助金に基づく研究活動

徐 淑子:次の研究活動の分担研究者となった。

平成14年・15年度厚生労働科学研究 研究費補助金 エイズ対策研究事業、エイズに関する普及啓発における非政府組織(NGO)の活用に関する研究(研究代表者、池上千寿子)

#### (5) 研究業績

〔著書〕

渡辺弘之.生命と社会を考えるー社会福祉制度2003ー.上越頁ネーションシステム.2004

〔論文〕

大友康博.介護サービス自己評価作業の課題.社団法人農協共済総合研究所.共済総合研究 2003;42:4-15.

大友康博.企業体・地域住民の協働による地域経済振興の可能性.にいがたまちづくり学会 政策研究誌 2003; 3: 14-18.

渡辺弘之.地方都市の社会学ー郊外化と地方都市の変化ー.人間科学研究第6号.2003:23-42

〔報告書〕

大友康博、大友優子.豪雪地帯における「社会的援護を要する人々」のための保健医療施策と事業の再編方向に関する研究.新潟県立看護大学平成14年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書 2003:21-22.

徐 淑子.大学生男子におけるコンドーム使用行動の背景要因についての検討.厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業、エイズに関する普及啓発における非政府組織(NGO)の活用に関する研究.平成14年度総括・分担報告書(主任研究者池上千寿子)2003:8-16.

徐 淑子.安全な性行動とはなにか.厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 エイズに関する普及啓発における非政府組織(NGO)の活用に関する研究.平成12-14年度総合研究報告書(主任研究者池上千寿子)2003:23-28.

徐 淑子.「予防的保健行動」としてのコンドーム使用.厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業、エイズに関する普及啓発における非政府組織(NGO)の活用に関する研究.平成12-14年度総合研究報告書(主任研究者池上千寿子)2003:29-34.

徐 淑子.ヘルス・コミュニケーションの考えにもとづいた健康教育の方法についての検討.新潟県立看護大学平成14年度学長特別研究費研究報告書 2003:51-52.

徐 淑子他.介入効果を測定する質問紙の開発.厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業、HIV感染予防対策の効果に関する研究.平成15年度総括・分担報告書(主任研究者池上千寿子)2004:15-20.

渡辺弘之、本間弘行.「生きにくさ」を抱える人たちと「自分自身の回復」ー心の病を持つ人たちの文化創造ー.新潟県立看護大学平成15年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書 2004:89-90.

渡辺弘之.ベトナムにおけるハンセン病患者の実態についてーベンサン病院調査の結果よりー.新

潟県立看護大学平成15年度学長特別研究費研究報告書 2004:82-87.

〔その他の論文〕

徐 淑子:保健行動科学の視点と日本の若者の保健行動分析現代性教育研究月. 2003;21(4):1-6.

〔学会発表〕

大友康博:子育て支援に果たす農業協同組合の役割、日本協同組合学会第22回大会、弘前大学、平成14年10月6日(抄録:協同組合研究、第22巻第3号、68、2003)

大友康博:子育て支援に果たす協同組合の役割・協同組合による病児保育施設運営の意義、現状と課題 明治大学、平成15年11月16日(抄録:協同組合研究、第23巻第3号、106、2004)

東優子、徐 淑子他:人気テレビドラマにおけるジェンダーとセクシャリティに関する分析. 第16回日本エイズ学会、2002年11月28日～30日、名古屋国際会議場.

#### (6) 社会活動

〔学会活動〕

大友康博:日本協同組合学会、日本社会福祉学会、日本農業経済学会、新潟まちづくり学会

徐 淑子:日本保健医療行動科学学会、日本生命倫理学会、日本エイズ学会

渡辺弘之:日本社会学会、福祉社会学会

〔その他の社会活動〕

大友康博:市民のまちづくり会議委員、上越市企画課

平成14年6月～平成16年3月

大友康博:行政改革及び財政健全化を考える市民会議委員、上越市企画課

平成14年6月～平成16年3月

大友康博:コミュニティビジネス支援ネットワーク形成会議準備会委員、

新潟県上越地域振興事務所、平成14年11月～平成15年3月

大友康博:市民と行政との協働に関する市民委員会委員、

上越市企画課、平成15年9月～平成16年3月

大友康博:牧村住民会議準備会委員、牧村総務課、平成15年10月～

渡辺弘之:上越市介護保険サービス評価会議座長(平成14年～現在)

〔社会教育活動〕

徐 淑子:講演「性の健康」をまもる保健行動、性教育のための実践セミナー

2003年12月13日、財団法人日本性教育協会.

大友康博:地域づくりと住民参加、健康づくり関係者研修会講師

新潟県上越健康福祉環境事務所、平成14年11月18日

大友康博:健康日本21地方計画策定検討部会助言者、

新潟県上越健康福祉環境事務所、平成14年11月18日

渡辺弘之:特定非営利活動法人りとるらいふ(障害者の余暇活動支援)理事

#### 4) 医学・医学臨床グループが主担する教育・教育管理活動

##### (1) 教員構成

杉田 収 教授                      中野正春 教授  
関谷伸一 教授                      吉山直樹 教授  
野地有子 教授 (平成16年6月1日付け採用)

##### (2) 授業について

基礎ゼミナール	2単位	30時間	第1、2 Semester	共通
ふれあい実習	1単位	45時間	第2 Semester	共通
化学	2単位	15時間	第1 Semester	杉田
生物学	2単位	15時間	第1 Semester	関谷
臨床生化学	2単位	15時間	第2 Semester	杉田
形態機能学Ⅰ	2単位	30時間	第1 Semester	中野
形態機能学Ⅱ	2単位	30時間	第1 Semester	関谷
臨床病理学Ⅰ	2単位	45時間	第2 Semester	吉山・中野
臨床病理学Ⅱ	2単位	45時間	第3 Semester	吉山
公衆衛生・疫学	2単位	30時間	第3 Semester	野地

##### (3) 授業内容について

「化学」は、環境、健康、食糧、エネルギー、バイオテクノロジーなど、これらに化学が大いに関係していることを学ばせ、化学が身近なものであり、それぞれの化学的原理・背景を理解することで日常生活が安全で豊かなものになることを理解できるよう努めている。

「生物学」は、生物としてのヒトを学ぶ目的で、関谷が担当した。細胞とゲノムの重要性、人類の進化について講義と英文テキストの読解を行い、プレゼンテーションを体験させた。また簡単な顕微鏡実習を3回行い、細胞や染色体の理解を深めた。

「臨床生化学」は、生体を構成する化学物質とその代謝、遺伝情報とその発現機構、さらに免疫を中心に講義している。その他糖尿病、高脂血症、癌、腎症、エイズなどは糖代謝、脂質代謝、遺伝子、尿、免疫からどのように説明され得るものか理解できるように講義を組み立てている。

「形態機能学Ⅰ・Ⅱ」は、運動器、神経系などの主として動物系形態・機能を含む形態機能学Ⅰを中野が、循環器・呼吸器・消化器・内分泌器・生殖器を含む同Ⅱを関谷が担当した。学生の興味が増すように病態学も取り入れて講義を行った。また骨格標本の簡単な観察や血液の顕微鏡観察を取り入れ、学生に興味と実感を持たせるよう工夫した。

「臨床病理学Ⅰ・Ⅱ」は、臨床病理学Ⅰの骨・筋肉組織等の運動器(臨床では整形外科)、神経系の疾病の成り立ちについては中野が分担し、他は吉山が担当した。臨床病理学Ⅱは吉山が担当した。本来、教員が本来の専門と離れた領域については、大学内外のゲストスピーカーを用意して実施するべきであるが、コンパクトにまとめて講義に統一感が欲しい科目であるので実行していない。できるだけ組織病理学から離れ臨床に近いオーソドックスな病理学のスタイルで、学生に現実感と病む人間への関心を持たせるべく腐心している。

現状において、さまざまな課題があるが、何よりも講義のなかでどのような内容がどこまで展開されているかを、他の教科担当者に知ってもらうことが重要と思われる。担当する科目の課題を考えてみる。

杉田が担当する化学では、簡単な実験は実施しているが、本格的な人手を要する実験はできな

いでいる。他教員とも協力して、遺伝子DNAの抽出などの、学生実験の実施が今後の課題である。

関谷が担当する生物学では、主に細胞学と進化学について授業を進めているが、いずれも看護・医療の領域でも関係する分野であり、またゲノムなどの最新のテーマも入れるようにしているため、授業内容には問題ないと考えている。また簡単な実習を組み込み、実験・観察の体験を通して生命を考える時間を設定している。しかし、受講生が多く簡単な実習であっても、その準備・評価などにかかなりのエネルギーが必要であり、省力化を図りたい。また学生の生物学や化学に対する興味の度合いと知識量が、受験時にどちらを選択科目としたかで大きな差があり、授業を進める上で障害となっているので、解決策を考えたい。

杉田が担当する臨床生化学では、現代の医療に関連する基礎知識は膨大な量に増加しており、半年間に3回の試験を実施して対応しているが、15回の半年間での講義では時間的に困難な状況が存在し、今後の課題である。

中野が担当する形態機能学Ⅰであるが、15コマ30時間で担当部分をすべて講義するには時間が不足し、自習を指示する部分がかかなりある。

関谷が担当する形態機能学Ⅱでは、15コマ30時間ずつで担当部分をすべて講義するには時間が不足し、自己学習を指示する部分がかかなりある。またeラーニングシステムを構築することも必要である。

吉山が担当する臨床病理学Ⅰ、Ⅱでは、講義の整合性について看護系科目との検討を重ねたい。いずれの看護大学・看護学部においても、この教科目の効果が充分ではない、との評価や情報が寄せられており、学生に対する生物モデル・疾病モデルの教育がどのようにおこなわれるならば理想的か、引き続き検討を重ねていきたいと考えている。また、効率の良い印象的な授業を行うため、パソコン・ビデオなどの機器を使用することを考えている。授業で重要な部分を学内LANを通じて学生がいつでも閲覧できるようにしたいと願っている。

#### (4) 教学管理

杉田は、研究交流委員会委員長として、その具体的活動は、研究費（学長研究費）を有効的に配分すること、研究成果を冊子にまとめること、研究成果の報告会を開催した。また、英語版の大学案内を作成した。

中野は、学生委員会委員長として学生の福利厚生に関する問題につき調査・審議を行っている。また、入試・就職委員会委員として入試・学生募集に関する業務を担当し、入試問題作成、合格者判定会議の構成員、等の業務を行っている。他にFD委員会、自己点検・評価委員会、倫理委員会の委員としての業務を担当している。また、セクシュアル・ハラスメント委員会から、セクシュアル・ハラスメント相談員として指名されている。学校医としても学生委員会とともに学生の医療的な問題を扱っている。

関谷は、FD委員会委員長として、学生による授業評価の企画実施、看護演習プログラムの開発の一つとしてのPBLチュートリアル教授法の導入、また教員による授業参観等につき、企画・運営に携わった。学外でのFDに関する各種研修会に参加した。

また、第3期生の学年担任として、学生の大学生活に対する支援活動を行ってきた。

吉山は、看護研究交流センター副センター長のほか、学生委員会、自己点検・評価委員会、倫理委員会の各委員会の委員として業務に参加している。特に学生委員会活動では学生の禁煙プロモーションを担当している。

野地は、FD委員会副委員長をつとめ、研究交流委員会、自己点検・自己評価委員会、大学院

設置準備委員会、倫理委員会、看護研究交流センター研究代表者会議メンバーとしての業務を担当している。

#### (5) 講座管理

看護基盤科学講座は様々な専門領域の教員の、ゆるやかな連合組織である。研究費はほぼ充足しているが、不足した場合はお互いに調整してきた。

#### (6) 研究活動

##### ① 大学の特別研究費に基づく研究活動の現状

杉田は、平成14年度は新潟県立看護大学学長特別研究費共同研究および、個人研究、さらに新潟県立看護大学看護研究交流センター事業活動研究の、それぞれの研究費の分配を受け、研究結果を報告した。平成15年度も同様であった。また個人研究費による個人研究では従来からの抗酸化能に関連する研究と住環境に関する研究を行っている。

中野は、平成14年度学長特別重点共同研究費により学生の骨密度を測定して発表した。その後も個人研究費により継続している。今後は本来の研究である先天性股関節脱臼の研究を新潟大学等と連携して研究を行うことを考えている。

関谷は、平成14年度は本学学長特別研究費共同研究および個人研究において研究費の分配を受けた。その後も人体解剖学と比較解剖学の同じテーマで研究が継続されている。

吉山は、平成14年度は本学学長特別研究費の個人研究の範疇で面接技法に関する研究について研究費の分配を受けた。

野地は、農村地域における中高年女性の健康課題の分析とまちの保健室開設にむけたアクション・リサーチ：新潟県立看護大学看護研究交流センター平成16年度地域課題研究費（研究代表者）及び看護領域別演習科目におけるPBLチュートリアル導入の効果：新潟県立看護大学学長特別研究費平成16年度委託研究費（研究代表者）の配分を受けた。

##### ② 学外公募研究補助に基づく研究活動

吉山直樹、中島紀恵子、服部伸、杉田 収—平成14年度に在宅医療助成勇美記念財団の研究助成：「痴呆要介護者に対する総合的・効率的ケア体制の確立に関する研究」

吉山直樹、矢島恭一—平成14年度の日本プライマリ・ケア学会の課題研究による研究助成：「プライマリ・ケアにおける感染管理—常在細菌の実態からみた在宅感染症にかんする研究」

林邦彦(研究代表者)、杉下知子、岡谷恵子、野地有子、今関節子、細川美千恵、李延秀、片野田耕太、松村康弘、藤田利治、高木廣文：日本ナースヘルス研究

Noji A, Clark MJ, Curran C: サンディエゴ大学看護学部との国際共同研究

野地有子、杉山みち子、秋吉美穂子、大輪洋子、麻生武志：更年期外来における系統的健康・栄養教育の開発

中山洋子、野地有子、内藤靖子：看護職員のコンサルテーションに関する研究

野地有子、朝倉京子、飯吉令枝、中島紀恵子：農村地域における中高年女性の健康課題の分析とまちの保健室開設にむけたアクション・リサーチ

吉山直樹、面接時の受診者(クライアント)と医療者の身体姿勢に関する行動学的研究。申請2003年11月、交付予定平成16年度～17年度

野地有子(研究代表者)：更年期女性の健康課題の分析と看護プログラムの開発-閉経周辺期および閉経後の女性保健に焦点をあてて- 平成14年度～16年度、基盤研究(B)

(2) 研究組織 野地有子、長谷川真澄(神奈川県立保健福祉大学)、丸山知子(札幌医科大学)、朝倉

京子(新潟県立看護大学)、飯吉令枝(新潟県立看護大学)、中島紀恵子(新潟県立看護大学)、中山健夫(京都大学)、Margaret Lock(McGill University)、Nancy Woods(University of Washington)、Mary Jo Clark(University of San Diego)、Ildong Kim(San Diego Nippon Clinic)

(7) 研究業績

〔著書〕

吉山直樹(編集責任)、鈴木荘一、飯島克巳、内山富士雄、寺崎 仁、松村真司編、日本プライマリ・ケア学会基本研修ハンドブック「プライマリ・ケア医の一日」、東京：南山堂；2004。

吉山直樹、小松 真、石橋幸滋、山田隆司編、生坂政臣監修、プライマリ・ケア実践ハンドブック、東京：エルゼビアジャパン；2004。

吉山直樹、他20名(編集：原 諭吉、太田英彦)、スタンダード生化学、東京：文光堂；2004。

野地有子：健康相談、田中平三(編)、新・健康管理概論、医歯薬出版、101-106、2003.1

野地有子：ヘルスヒストリー(健康暦)のガイドライン、氏家幸子(監)、成人看護学、成人看護技術Ⅰ(フィジカルアセスメント)、廣川書店、7-20、2004.2

野地有子：働く女性の健康、吉沢豊予子(編)、女性生涯看護学、真興交易、238-254、2004.10

野地有子：諸外国の公衆衛生の発達と地域看護の変遷、標準保健師講座地域看護学概論、医学書院、88-97、2004(in press)

野地有子：成人保健指導、シリーズ保健学講座、メヂカルフレンド、1-94、2004(in press)

野地有子：生活指導—エンパワメントに注目して、麻生武志(編)更年期医療のコツ と落とし穴、中山書店、2004(in press)

〔論文〕

斎藤智子、山元智穂、杉田 収、関島香代子、看護学生の喫煙行動及び喫煙に関する意識と喫煙防止教育のあり方、新潟看護紀要 2002；8：27—34。

杉田 収、石澤信人、中野正春、松戸隆之、岡田正彦、クメンヒドロペルオキシド／ヘモグロビン・メチレンブルー法による緑茶・紅茶の抗酸化能、臨床病理 2003；51：859—863。

杉田 収、室岡耕次、大竹 朗、他、介護・看護からみた住宅評価法、保健の科学 2004；46：143—149。

Sugita O, Ishizawa N, Matsuto T, Okada M, Kayahara N. A new method of measuring the antioxidant activity of polyphenols using cumene hydroperoxide. Ann Clin Biochem 2004；41：72-77。

Sekiya S and Kumaki K, Sural-tibial nerve communications in humans. Anatomical Science International 2002；77(2)：140-144

吉山直樹、在宅感染症の今日—現状のままで良いのか、日本プライマリ・ケア学会誌2002；25(3)：202-212。

吉山直樹、島の医療・福祉に求められるもの、日本島嶼学会年報 2002；4：55-61。

吉山直樹、アパタイト経皮端子付き腹膜カテーテルの臨床応用について、Transactions of the 18th Symposium on Apatite 2002；18：5-6。

吉山直樹、在宅感染症総論、日本プライマリ・ケア学会神奈川支部会誌 2003；13/14：60-61。

吉山直樹、在宅感染症が院内感染症と異なる特徴、難病と在宅ケア 2002；8(9)：31-34。

吉山直樹、セカンドオピニオンは医療か？人間の医学 2003；39(3)：232-234。

野地有子：看護系大学の評価基準、看護教育43(7)：552-555、平成14年7月

Thurkettle MA、野地有子：米国における看護ケースマネジメント(1)医療のリンクピン—看護ケ

- ースマネジメントの特徴一、Quality Nursing, 8(7):65-73、平成14年7月
- Thurkettle MA、野地有子:米国における看護ケースマネジメント(2)ヘルスケアパラダイムシフトー健康パラダイムにおける看護ケースマネジメントの役割一、Quality Nursing, 8(8):67-73、平成14年8月
- Thurkettle MA、野地有子:米国における看護ケースマネジメント(3)ケースマネジメントにおける情報システムー全組織におよぶ効果一、Quality Nursing, 8(9): 61-69、平成14年9月
- 野地有子:アメリカのCommission on Collegiate Nursing Education(1)CCNEの概要と認定スタンダード、Quality Nursing, 8(9):15-22、平成14年9月
- 野地有子:アメリカのCommission on Collegiate Nursing Education(2)CCNEの認定のプロセスとエビデンスの例、Quality Nursing, 8(9):23-28、平成14年9月
- 野地有子:アメリカのCommission on Collegiate Nursing Education(3)CCNEの訪問審査員のトレーニング、Quality Nursing, 8(9):29-32、平成14年9月
- 野地有子:クリティカルシンキングと教育方法、看護教育、43(11):918-925、平成14年11月
- 野地有子:米国在住の日本人女性の更年期の経験に関する研究ー社会・文化的な環境要因と医療システムに焦点をあてて一、日本更年期医学会誌、10(2):216-224、平成14年10月(査読付き論文)
- Thurkettle MA、Noji A: Case management: A Source of Support and Stability for the Client and the Healthcare System, Lippincott's Case Management, 8(2):88-94、平成15年3月(査読付き論文)
- 野地有子:コメディカルに期待されること-ケースマネジメント機能の開発と実践-、日本更年期医学会誌、11(1):56-59、平成15年4月
- 野地有子:米国サンディエゴ大学看護学部が採用している大学評価基準のひとつー看護教育プログラムの学部と大学院における認定基準:高等看護教育委員会、日本看護クリティカルシンキング研究会誌、2(1): 2-4、平成14年4月
- 長谷川真澄、丸山知子、野地有子:中高年女性の月経プロフィールと対処行動、日本更年期医学会誌、(in press)(査読付き論文)
- [ 報告書 ]
- 杉田 収、文部科学省科学研究費補助金(基盤研究C、課題番号09672370)報告書、抗酸化能の新測定法とその臨床応用に関する研究、2002.
- 杉田 収、佐々木美佐子、平澤則子、飯吉令枝、斎藤智子、吉山直樹、関谷伸一、橋本明浩:高齢社会を支える住宅環境に関する研究、新潟県立看護大学平成14年度学長特別研究費研究報告書 2003:1-4.
- 杉田 収、クメンヒドロペルオキシドを用いた新しい抗酸化能測定法の開発、新潟県立看護大学平成14年度学長特別研究費研究報告書 2003:37-40.
- 杉田 収、佐々木美佐子、小林恵子、平澤則子、飯吉令枝、斎藤智子、吉山直樹、関谷伸一、橋本明浩、地域ケアを支える住宅環境に関する研究、新潟県立看護大学平成14年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書 2003:17-20.
- 中野正春、加藤光寶、深澤佳代子:.新潟県立看護大学1年生の骨密度に関する研究、新潟県立看護大学平成14年度学長特別研究費研究報告書 2003:5-6.
- 関谷伸一、中野正春、橋本明浩、e-learning による「形態機能学」の教育と自己学習の推進、新潟県立看護大学平成14年度学長特別研究費研究報告書 2003:7-10.
- 吉山直樹、面接技法の研究ー特に外来面接設定でのクライアントと医療者の姿勢に関する動物行動学的研究一、新潟県立看護大学平成14年度学長特別研究費報告書 2003:41-42.

佐々木美佐子、小林恵子、平澤則子、飯吉令枝、斎藤智子、吉山直樹、農村地域における高齢者の生活構造とソーシャル・ニーズに関する研究、新潟県立看護大学平成14年度学長特別研究費報告書 2003:29-32。  
吉山直樹、佐々木美佐子、豪雪へき地医療福祉機関の機能維持に関する調査—特に医師・看護師の確保に重点をおいて、平成14年度新潟県立看護大学看護研究交流センター事業活動・研究報告書 2003:5-8。  
野地有子、豪雪地方に暮らす後期高齢者の生涯と健康の実態：中島紀恵子(研究代表者)新潟県立看護大学看護研究交流センター

〔その他の論文〕

杉田 収、高齢者の居住環境整備に向けたアプローチ—介護予防の視点から—住宅改修に当事者・家族をどう参画させるか、関係者による検討会開催のすすめ、生活教育 2002;46(12):30-34。

小林恵子、杉田 収、斎藤智子、関谷伸一、佐々木美佐子、他、快適住まい環境研究会報告 第7報—住む人のQOL(生活の質)を高める住まい方とは—、新潟看護紀要 2002;8:45-50。

〔その他〕

吉山直樹、中島紀恵子、服部 伸(服部外科医院;上越市)、杉田 玄(杉田医院;上越市)、難病としての痴呆要介護者に対する総合的・効率的ケア体制の確立に関する研究、勇美記念財団2002年度在宅医療助成研究 平成15年4月～平成16年3月。(再掲)

吉山直樹、矢島恭一(上田診療所;山形県酒田市)、常在細菌の実態からみた在宅感染症にかんする研究、日本プライマリ・ケア学会課題研究 平成14年12月～平成16年3月。(再掲)

辞書 総編集：伊藤正男、井村裕夫、高久史麿、執筆者：杉田 収、他3400名、医学大辞典、アルカリホスファターゼアイソザイムなど18項目を分担執筆、東京：医学書院；2003。

杉田 収、佐々木美佐子、関谷伸一、室岡耕次、小林恵子、斎藤智子、水戸美津子、上越地域における快適で安心な住まい環境に関する研究、自費出版(快適住まい環境研究会) p. 246、2003。

〔学会発表〕

杉田 収、ワークショップ；クメンヒドロペルオキシドを用いた抗酸化能測定の意義、第20回日本臨床化学会甲信越支部総会抄録集10-13、2002。

Sugita O、Ishizawa N、Matsuto T、Okada M、Kayahara N、The antioxidant activity of polyphenols using cumene hydroperoxide、Clinical Chemistry and Laboratory Medicine. 40、S151、2002。

杉田 収、石澤信人、松戸隆之、岡田正彦、CHP/Hb・MB法の自家製試薬によるお茶類の抗酸化能、臨床病理(補)；51、333、2003。

関谷伸一、千葉正司、宮脇 誠、熊木克治、腓腹神経の構成成分とその分布領域、第108回日本解剖学会(福岡市)、2003、4。

荒川高光、関谷伸一、寺島俊雄、外側足底神経深枝の線維解析—母指内転筋斜頭を貫いて内側足底神経と交通する例—、第108回日本解剖学会(福岡市)、2003、4

荒川高光、関谷伸一、熊木克治、寺島俊雄、ヒト足の外側足底神経深枝、とくに母指内転筋枝の分岐パターン、第2回コ・メディカル形態機能学研究会(大津市)、2004、3

吉山直樹、小林繁郎、宮原 祥、田中キミ子、面接技法の研究—外来診療における「右」と「左」、第25回プライマリ・ケア学会、2002、6。

荒木俊行、南部正人、吉山直樹、小澤健二、堀江さや、竹中直也、他4名、当院におけるOFF-LINE-HDF療法、第47回日本透析医学会、2002、7。

吉山直樹、医療面接の動物行動学的検討、第7回日本心療内科学会学術大会、2003、1。

荒木俊行、南部正人、吉山直樹、小澤健二、竹中直也、堀江さや、他5名、透析アミロイドーシスに対

するOFF-LINE大量置換療法+ $\beta$ 2-MG吸着カラム(リクセルS-15)の1症例、第48回日本透析医学会、2003.6.

吉山直樹、田中キミ子. 医療専門職のライフコース(Pass of Life)研究、第26回プライマリ・ケア学会、2003.7.

田中キミ子、柏木夕香、吉山直樹、戸村成男. 高齢者のセルフケア実践の分析—独り暮らし高齢者のセルフケアに関連する要因、第26回プライマリ・ケア学会、2003.7.

Noji A、Hasegawa M、Maruyama T: Exerience of Menopause As A Transition Period Among Japanese Women、The 8th International Qualitative Health Research Conference (Banff、Canada)、平成14年4月

Hasegawa M、Noji A、Maruyama T: Self-Image Of Aging Among Japanese Menopausal Women、The 8th International Qualitative Health Research Conference (Banff、Canada)、平成14年4月

Kawamura M、Noji A、Weingourt R、Hasegawa M: The Role of The Nurse who Acts Support for a Terminally Ill Women who is seeking the Meaing of her Life、The 8th International Qualitative Health Research Conference (Banff、Canada)、平成14年4月

川村三希子、野地有子: 在宅要介護高齢者の介護肯定感・負担感に関する要因について、日本地域看護学会第5回大会、平成14年6月

種市ひろみ、野地有子: 在宅療養者の自己決定に関する文献検討、日本地域看護学会第5回大会、平成14年6月

Noji A、Hasegawa M、Maruyama T、Kudo R: Health Behavior of Menopausal Women in Japan、The 10th World Congress on the Menopause (Berlin、Germany)、平成14年6月

Akiyoshi M、Owa Y、Sugiyama M、Noji A、Aso T : Evaluation of the Systematic Health and Nutritional Education Program by Menopausal Out- Patient Clinic、The 10th World Congress on the Menopause (Berlin、Germany)、平成14年6月

長瀬亜岐、野地有子: 在宅脳卒中患者の食の再構築に関する研究—食に関する意識と栄養状態—、日本健康・栄養システム学会第2回大会、平成14年6月

平野憲子、和泉比佐子、加藤欣子、工藤康子、野地有子: 在宅看護実習の訪問対象者に対する指導者の配慮、日本看護学教育学会、第12回大会、平成14年7月

野地有子: 地域で暮らす高齢者の安全を守る看護プログラム、聖路加看護学会、第7回大会、平成14年9月

野地有子、長谷川真澄、丸山知子: 更年期女性における健康課題のサブストラクションの検討、日本更年期医学会、第17回大会、平成14年10月

長谷川真澄、丸山知子、野地有子、工藤隆一: 中高年女性の月経プロフィールと対処行動、日本更年期医学会、第17回大会、平成14年10月

平野憲子、和泉比佐子、加藤欣子、工藤康子、野地有子: 在宅看護実習の訪問対象者に対する指導者の配慮、日本在宅ケア学会、第7回大会、平成15年1月

和泉比佐子、加藤欣子、工藤康子、平野憲子、野地有子: 地域看護学実習における地域の看護アセスメントに対する自己効力感と自己評価の検討、日本地域看護学会、第6回大会、平成15年6月

野地有子、長谷川真澄、丸山知子: 更年期女性保健からみた健康教育のニーズ、日本健康教育学会、第12回大会、平成15年6月

川村三希子、野地有子、小島悦子: がんサバイバーの生きる意味の変化とサポートグループの影響、

日本緩和ケア学会、平成15年6月

A. Noji, M. Hasegawa, T. Maruyama: Menopause symptom reporting and WHOQOL-BREF score of working women in Sapporo Japan, North America Menopause Society 14th annual Meeting (Miami, USA)、平成15年9月

野地有子、長谷川真澄、丸山知子、35歳～65歳の女性のもつ更年期の認識とイメージ、聖路加看護学会、第8回大会、平成15年9月

長谷川真澄、野地有子、丸山知子: 中高年女性の更年期の受け止めと保健行動の実態、日本老年看護学会、第7回大会、平成15年11月

野地有子、長谷川真澄、丸山知子: 働く女性における更年期治療およびホルモン補充療法に関する実態、日本更年期医学会、第18回大会、平成15年11月

野地有子、長谷川真澄、丸山知子: 看護師の更年期の受け止めと保健行動、日本看護科学学会、第23回大会、平成15年12月

A. Noji, M. Hasegawa, T. Maruyama: Lifestyle and Quality of Life of Middle-Aged Working Women in Sapporo, Japan, 5th International Symposium on Women's Health and Menopause (Florence, Italy)、平成16年4月

種市ひろみ、平野憲子、野地有子: 介護保険制度におけるサービス利用決定プロセス—高齢世帯における訪問介護サービス利用に焦点をあてて—、日本地域看護学会、第7回大会、平成16年6月

A. Noji, JS Lee, S. Imazeki, M. Hosokawa, K. Okaya, C. Sugishita, K. Katanoda, Y. Matsumura, T. Fujita, H. Takagi, K. Hayashi: The Japan Nurse's Health Study: Lifestyles of nurses from baseline data, JANS 5th International Nursing Research Conference (Fukushima, Japan)、平成16年8月

K. Asakura, A. Noji, Y. Iiyoshi: The nursing guidance clinic in Joetsu City in Japan: Toward action research, JANS 5th International Nursing Research Conference (Fukushima, Japan)、平成16年8月

野地有子: 地域で暮らす高齢者の安全を守る看護プログラム、聖路加看護学会、第9回大会、平成16年9月

K. Nakajima, C. Karasawa, A. Noji: Fact-finding study on telephone counseling for the elderly with dementia and family caregivers, 20th International Conference of Alzheimer's Disease International (Kyoto, Japan)、平成16年10月

岡谷恵子、李延秀、野地有子、杉下知子、今関節子、細川美千恵、片野田耕太、松村康弘、藤田利治、高木廣文、林邦彦: Japan Nurse's Health Studyにおける看護職の勤務時間と日常生活、日本看護学会(看護管理)、平成16年10月

野地有子: (学会大会長) 日本健康・栄養システム学会 第1回北海道分科会会長、平成14年11月(札幌)

野地有子(教育講演)「コメディカルに期待されること—ケースマネジメント機能の開発と実践—」、日本更年期医学会、17回大会平成14年11月

野地有子(シンポジウム)「看護からみた栄養ケアマネジメント」、日本健康・栄養マネジメント学会、第3回大会、平成15年6月

野地有子(シンポジウム)「質的研究方法—グラウンデッド・セオリー・アプローチ—」、日本総合診療医学会、第10回大会、平成15年3月

野地有子(ディベート)「あなたは地区担当制? それとも業務担当制?」、第26回全国地域保健師学術研究会、平成16年10月

## (8) 社会活動

### 〔学会活動〕

(杉田 収)

日本電気泳動学会(評議員、編集委員)、日本臨床検査医学会(評議員、会誌「臨床病理」査読委員)、日本自動化学会(評議員)、生物試料分析学会(評議員)、日本臨床化学会(評議員)、日本遺伝子診療学会、日本住宅会議、日本雪工学会

(中野正春)

日本整形外科学会、日本小児整形外科学会、日本股関節学会、中部日本整形外科災害外科学会、東日本整形災害外科学会、東北整形災害外科学会、日本小児股関節研究会、新潟医学会、新潟整形外科学会、コ・メディカル形態機能学研究会

(関谷伸一)

日本魚類学会、日本動物学会、日本解剖学会、日本海セトロジー研究会、日本霊長類学会、公立短期大学図書館協議会 会長(平成14年5月まで)、日本図書館協会短期大学図書館部会 副部会長(平成14年5月まで)

(吉山直樹)

日本腎臓学会(法定評議員)、日本成人病(生活習慣病)学会(評議員)、日本心療内科学会(評議員、学会誌編集委員)、日本プライマリ・ケア学会(評議員、常務理事、認定委員会委員、介護保険委員会委員長、用語委員会委員長)、日本在宅医療研究会(世話人)、国際腎臓学会(ISN)、ヨーロッパ人工臓器移植学会(EDTA)、日本内科学会、日本透析医学会、日本医学教育学会、日本老年医学会

(野地有子)

米国サンディエゴ大学における日本人看護学生の夏季授業の企画、実施

Member of Editorial Board of Nursing & Health Sciences、日本医療機能評価機構(看護領域)サーベイヤー、日本地域看護学会(評議員、査読委員)、日本老年看護学会(評議員)、日本健康栄養システム学会(理事)、日本看護科学学会(第5回国際学会企画委員、プログラム委員)、日本更年期医学会(ホームページ委員)、上越まちの保健室企画運営委員、日本健康・栄養食品協会食品ヒト試験倫理委員会委員、聖路加看護学会評議員、ありかた検討委員会委員、北海道看護職員コンサルテーション事業委員、北海道北広島市健康施策策定委員会委員

### 〔その他の社会活動〕

杉田 収は「上越市人にやさしいまちづくり推進会議会長」をつとめている。

吉山直樹は、上越地域の地域貢献活動としては、「上越市第5次総合計画審議会委員」、「牧村健康づくり推進協議会委員」、「上越地域介護認定審査会委員」等をつとめている。

### 〔社会教育活動〕

杉田 収: パネルディスカッション 健康住宅について考える、第5回 全国健康住宅サミット 越後雪国大会、2003、2.

杉田 収: 人と環境にやさしい住まいづくり—これからのリフォーム—新潟バイタリティー、21(11)、4-7、2003.

杉田 収: 自立と環境、新潟県身体障害者施設協議会講演(上越市)、2003、11.

杉田 収: 上越市のユニバーサルデザイン活動—上越市人にやさしいまちづくり推進会議報告—、第2回新潟県ユニバーサルデザイン講演会、2003、12.

杉田 収: 新潟県立看護大学とこれからの大学、新潟県立新井高等学校PTA講演会、2004、3.

吉山直樹:老年期のうつ状態をどのように理解するか、新潟県長岡市、2003年1月17日。

吉山直樹:高齢者のうつ状態について、新潟県西山町、2003年3月4日。

吉山直樹:高齢者のねたきりを防止するために、新潟県大島村、2003年3月6日。

吉山直樹:高齢者の心と身体の観察ポイント、新潟県上越市、2003年3月10日。

吉山直樹:「健康日本21」策定のために、新潟県牧村、2003年3月11日。

吉山直樹:高齢者のうつ病—寝たきりを防ぐために、新潟県村松町、2003年10月16日。

吉山直樹:生活からみえる病気とその予防—生活習慣病予防—、新潟県村松町、2004年5月24日。ワークショップ

杉田 収:ワークショップ 四肢麻痺者の自立を支える環境制御装置、新潟看護大学看護研究交流センター地域・行政課題研究事業、2003、2。

関谷伸一:楽しく学ぶ文献検索法、新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会、2003年8月19日

杉田 収:快適な住まいについて考えよう—一人と環境にやさしい住宅とは—、上越市環境情報センター;家事の環境講座、2002、8。

杉田 収:上越市人にやさしいまちづくり—条例の背景と推進計画—、上越市庁内研修会講演、2002、10。

杉田 収:安心・快適生活を求めて、新井市華金会講演、2002、10。

杉田 収:住宅の太陽光発電とシックハウスについて、上越市環境情報センター;おとなの環境教室、2003、6。

杉田 収:住まいは福祉の原点、東頸城郡民生・児童委員協議会講演(浦川原村)、2003、6。

杉田 収:まちなかのまちづくり—最後まで快適にまちで暮らしたいために—、まちなかのふくし・暮らし・まちづくり住民シンポジウム(上越市)、2003、11。

野地有子:「クリティカルシンキング」、南1条病院看護部研修会、平成14年9月

野地有子:「保健師の施策能力の開発」、北海道保健医療福祉部研修会、平成14年9月

野地有子:「大学と実践の協働」北海道保健医療福祉部研修会、平成15年3月

野地有子:「家族看護」札幌医科大学病院看護部研修会、平成14年10月

野地有子:「楽しく学ぶクリティカルシンキング」、新潟県立看護大学平成15年度公開講座、平成15年9月

野地有子:「更年期の保健」上越農業共同組合婦人部研修会、上越市健康づくり推進課、平成16年2月

野地有子:「高齢社会とボランティア」、新潟県成人病予防センター研修会、平成16年2月

野地有子:「在宅ケアシステム論」、新潟県看護協会講習会、平成16年5月

野地有子:「超高齢社会とボランティア」、柿崎市保健福祉課講習会、平成16年11月

#### (9) 現状と課題

看護基盤科学講座は、常勤教員だけをとっても英語・社会学から臨床医学・看護学まで多様で広範な専門性をバックとした組成である。

広範な専門性をもつ教員が講座の特性を踏まえつつ、その枠を越えた学際的研究の独創性を見だし、かつ、本来の専門性をアップするための研究システムは何か、教員自身が様々な観点から努力を積み重ねることが必要であろう。

今後の研究活動計画のための方策としては、

##### ① 研究活動の基礎となる基盤整備

看護基盤科学講座としては、1名の事務補佐員が配置されているので、引き続き有効活用を図りたい。研究上の補佐機能の強化として、研究費の事務的な処理の迅速化と効率化が望まれるところであるが、当座、マンパワーに依拠せずIT機器等の充実によってこれを可能としたい。

看護基盤科学講座は、特定の教員を除き実験室・実習室等を持っていないので、今後大型の研究機器が導入される場合には、その設置場所を含め、スペースの上では、さらに検討が必要な事態も生じよう。

#### ⑥ 研究費獲得の戦略

現行では、本学においては「学長特別研究費」や看護研究交流センターの「地域課題研究」への応募等により、各教員のおける研究費はそれなりに確保されているが、長期にわたり充実した研究を展開するには、外部の研究費を獲得することが必須である。各種の団体が募集する研究助成に積極的に応募することが必要である。

⑦ 今後の研究活動計画のための方策としては、第1に看護基盤科学講座内での学術情報交換の機会を設け、相互に各自が専門とする研究情報を交換することによって近縁の学術的蓄積を学内で発掘する。

第2に地域の知的資源を共有できる職種との学術的交流を深め、共に活動できる学外共同研究者を見いだす。第3には、県下の大学や、病院・研究所等の諸施設と、個人的交流あるいは大学・施設間の単位互換や公開講座の共有を通じて、研究上の協力関係に発展させる。

### 3 基礎看護学講座

#### (1) 教員構成

平成14年度、15年度の本講座所属の教員は、以下のとおりである。

中島	紀恵子	教授
中川	泉	助教授
朝倉	京子	助教授
大友	優子	講師

#### (2) 講座運営の経過

本講座は、看護基盤科学講座に配置されており、看護基盤科学の形態・機能学、病態学、情報科学、人間科学系の教員と、看護専門領域の各講座との教育的ネットワーク機能を期待されている。

当講座が担っている教育上の特徴は、健康に関わる専門職としての基本的な知識や態度を修得できるように、看護の基本的原理や基礎的な概念の理解を深めることである。そのために、看護基盤科学の教員が看護学教育に参加することを支援し、学際的で質の高い看護基礎教育の体制を整える役割を有する。

#### (3) 教育活動

##### ① 授業科目について

本講座では、「看護倫理」(1単位第1 Semester)、「看護科学史」(1単位第1 Semester)、「国際看護活動論」(1単位第2 Semester)、「在宅ケア論」(1単位第2 Semester)の授業科目を担当している。授業内容は、シラバスで明示した内容に添って進められている。すなわち、看護およびケアの原理と倫理、看護学とその歴史、在宅ケアの主要概念・社会制度、国際的な視点からみた看護の理論や方法を教授することを通して、看護学の初学者としての基本的な知識や探究の方法を身につけることを大きな目標としている。以下に、各授業科目の概要について述べる。

##### ② 実習科目について

基礎看護学実習Ⅰ(1単位第1 Semester)、ふれあい実習(1単位第2 Semester)を開講した。

「基礎看護学実習Ⅰ」では、地域社会において日常生活を送っている個人と日々の生活の場で接することにより、その個人の生活と健康について理解を深めること、参加、観察、対話をとおして、人間と環境および健康の相互関連に気付くこと等を到達目標に、にいがたねりんピック、上越市立保育園、上越市内の市立小学校での実習を行った。教育効果の観点から、平成15年度は、保育園での実習日数を延長し、代わりに小学校での実習を中止した。この実習での学習成果は、ふれあい実習へと継続された。

「ふれあい実習」は、地域の人々との交流をとおして、生活者の視点にたつて、地域で暮らす人々の日常生活の成り立ちや生活の基盤となる価値について考えることを目標に、新潟県内の23～24市町村の協力を得て行った。この実習で本講座が、コーディネーターとしての役割を担った。実習に参加した学生は、実習市町村での豊かな人間関係を築き、一定程度、地域の文化や生活を理解することができた。これらの実習成果から、この実習は今後の各看護専門領域での授業科目につながる重要な学びの場であることを確認した。

#### (4) 教学管理

教授の中島は、本学の学長、看護研究交流センター長としての任務を遂行した。

助教授の中川は、平成14年度は、教務委員会副委員長、研究交流委員会委員、FD委員会委員、平成15年度は、教務委員会副委員長、広報委員会副委員長、大学院設立準備委員会委員として大学の管理運営に参画した。

助教授の朝倉は、平成14年度は、図書委員会委員、実習部会委員、FD委員会委員、平成15年度は、図書委員会委員、入試・就職委員会委員、実習部会委員、大学院設立準備委員会委員として大学の管理運営に参画した。

#### (5) 講座管理活動

月に1度～2度の講座会議を開催し、講座の予算、役割分担、担当者等について議論しながら講座を管理した。平成14年度は大友講師の産休・育休があったため、中川と朝倉で実務を分担し、講座の教育・研究活動を円滑に行うため、機器および図書の整備及び教員個々の専門領域における研究活動を支援するための体制づくりに取り組んだ。特に15年度は、研究方法論に関する各教員の知識をブラッシュアップするための取り組みを中心にした。

また、教授の中島は学長を兼任しているため、教授の業務を補佐し、講座および大学の運営が円滑にすすむよう協力体制を整えた。

その他、中川は、実践基礎看護学講座の演習に協力し、朝倉は、短期大学部の基礎看護学実習Ⅱに協力した。

#### (6) 研究活動

##### ① 文部科学省科学研究費助成課題研究

(1) 朝倉京子:我が国の看護学領域に対するジェンダー分析と、それに基づく看護科学試論の作成、若手研究(B)、平成15年度～17年度

#### (7) 研究業績

##### 〔著書〕

中島紀恵子,井出訓,北川公子,湯浅美千代,鈴木智子:実践看護技術学習

支援テキスト—老年看護学,序文,老年看護学総論(第一章Ⅰ・Ⅱ),

監修,3-13,15-26,2002,日本看護協会出版会

中川 泉:24時間連絡体制加算実現への過程と看護研究の役割,25(5),43-46,2002,インターナシヨ

ナルナーシングレビュー

中島紀恵子:看護・介護分野「デイケア～ナイトケア」,「看護・介護の実際～痴呆患者の看護・介護(徘徊,問題行動)」,長寿科学事典,996-997,1000-1002,2003,医学書院

中島紀恵子:最新保健学一疫学・保健統計一,家族における健康管理(第11章Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ),177-191,2003,真興交易(株)

中島紀恵子,中西睦子,前原澄子,南裕子(編集):「看護研究」アーカイブス全3巻,2003,医学書院

大友優子:保健専門職の駐在とプライマリヘルスケア,松田正己他編 やってみようプライマリヘルスケアー変わりゆく世界と21世紀の地域健康づくり一,158-170,2003.3,やどかり出版

朝倉京子:保健医療領域におけるセクシュアリティ概念について(第一章),根村直美編,ジェンダーで読む健康/セクシュアリティ,17-35,2003,明石書店

中川 泉:介護活動における過程とその展開(第4章6節),社会福祉士養成講座14介護概論第2版,157-164,2003,中央法規

朝倉京子:アイダ・ジーン・オーランド(第五章),黒田裕子監修,やさしく学ぶ看護理論,101-117,2003,日総研〔論文〕

朝倉京子:「セクシュアリティに対する態度」尺度の開発に関する研究,日本保健医療行動科学会年報,17,85-113,2002

原等子,中島紀恵子:痴呆高齢者の家族介護時間の特性～家族介護主担者の時間的様相,日本老年看護学会誌,7(2),70-82,2003

中島紀恵子:専門分野における痴呆ケアのあり方および今後の課題～痴呆ケアと実践研究上の課題,日本痴呆ケア学会誌,2(1),9-16,2003

朝倉京子:看護職者の「セクシュアリティに対する態度」に影響を与える要因,看護研究,36(2),71-78,2003

大友優子,星野信也:Social Exclusion, Social Inclusion and Primary Health Care,現代福祉研究(第3号),81-101,2003.3

中島紀恵子:特集/新時代の看護,老年看護・克服すべき課題と論点,教育と医学,58(2),33-39,2004

中島紀恵子:特集/グループホーム,グループホームに込められているケアの革新性,日本痴呆ケア学会誌,3(1),56-63,2004

朝倉京子:看護学領域におけるセクシュアリティ概念,Frontiers of Gender Studies, 1,228-232,2004〔報告書〕

中島紀恵子,原等子,北川公子:介護時間しらべ,(社)呆け老人をかかえる家族の会委託研究報告書,2002

中島紀恵子,太田喜久子,柄澤昭秀,北川公子,田高悦子,永島光枝,馬場先淳子,道官克一郎:在宅痴呆性高齢者ケアに関する実態調査及びマニュアル等作成事業,(財)日本訪問看護振興財団平成14年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金事業報告書,2003

朝倉京子:看護学におけるフェミニスト・アプローチに関する研究,平成14年度学長特別研究費研究報告書 53-54,2003

濱田悦子,朝倉京子,川原由佳里,佐々木幾美,樋口康子,谷津裕子,吉田みつ子:看護師資格試験における良質な問題の作成システム及びプール制導入に関する研究,厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業報告書,2003

大友康博・大友優子:豪雪地帯における社会的援護を要する人々のための保健医療施策と事業の再編方向に関する研究,新潟県立看護大学平成14年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書,21-22,2003.6

橋本昭浩,中川 泉,吉山直樹,中島紀恵子:ヘルスケア提供者のためのリソース・アーカイブの構築の基盤作成について—費用対効果が優れたネットワークトレージの構成評価—.平成14年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書53-56,2003

中島紀恵子,唐澤千登勢:老人性痴呆(ぼけ)専門の電話相談全国実態調査と開設システムの研究～第1部老人性痴呆(ぼけ)のための電話相談・その意義と実態,(財)ぼけ予防協会報告書,1-38,2004

中島紀恵子,野地有子,朝倉京子,飯吉令枝,大友康博,籠玲子,唐澤千登勢,北川公子,小林恵子,斎藤智子,佐々木美佐子,田中キミ子,中川 泉,中野正春,橋本明浩,平澤則子:豪雪地方に暮らす後期高齢者の生涯と健康の実態(中間報告)、新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究概要報告,101-113,2004、

朝倉隆司,中山和弘,朝倉京子,園田恭一:日本,ブラジル,米国における日系移民の異文化適応問題と精神健康の医療社会学的研究,平成12年度～15年度 科学研究費補助金基盤研究(B)(1),2004

〔その他の論文〕

中島紀恵子:コラム/手から手へ～介護時間と充足感,ほうもん看護,77(1),2002

中島紀恵子:特集/訪問看護への応援歌～近い将来のイメージをデッサンし,その実現にかけてみてもは,訪問看護と介護,8(1),6-8,2003

中島紀恵子:カルチャーチェンジ,日本老年看護学会誌,8(1),4,2003

〔学会発表〕

伊勢崎美和,北川公子,中島紀恵子:デイケアにおける痴呆性老人の「生活健康スケール」の検証,日本老年看護学会第7回大会,神奈川,2002年11月

上出由美子,中島紀恵子:入院高齢者の術後せん妄における初期予防の評価に関する一考察,日本老年看護学会第7回大会,神奈川,2002年11月

萩野悦子,山田律子,磯田順子,中島紀恵子:療養型病床群における痴呆性高齢者の睡眠・覚醒リズムの乱れと照度の関係,日本老年看護学会第7回大会,神奈川,2002年11月

原等子,中島紀恵子:痴呆性高齢者の家族介護時間の構造～家族介護者による介護時間調査の分析から,日本老年看護学会第7回大会,神奈川,2002年11月

朝倉京子:看護職者の「セクシュアリティに対する態度」と「共感的態度」に関する研究,第17回日本保健医療行動科学学会学術大会,2002年6月8日

唐澤千登勢,北川公子,中島紀恵子:在宅痴呆高齢者の身振り表現の意味分析に関する一考察,日本老年看護学会第8回大会,兵庫,2003年11月

唐澤千登勢,中島紀恵子,北川公子:在宅痴呆高齢者のニーズと“関わる”技法に関する考察～事例の身振りの意味分析より,日本痴呆ケア学会第4回大会,仙台,2003年11月

中島紀恵子(太田喜久子氏大会長講演座長):老年看護方法論の確立をめざして,日本老年看護学会第7回大会,神奈川,2002年11月

中島紀恵子(一般口演座長):「高齢者の健康と看護」グループ発表3題,日本看護科学学会第22回大会,東京,2002年12月

中島紀恵子(一般口演座長):「患者の体験世界」に関するテーマ5題,日本保健医療行動科学学会第18回大会,千葉,2003年6月

朝倉京子 第4回 日本赤十字看護学会学術集会(口演座長),2003年6月6日

中島紀恵子 日本社会事業大学社会事業研究所,平成15年度社会福祉研究大会特別報告(コメントター):京極高宣著作集(全10巻)について,東京,2003年6月28日

中島紀恵子(久常節子氏大会長講演座長):看護職の持てる力を高めるために,日本看護管理学会第7回大会,横浜,2003年8月

朝倉隆司、中山和弘、朝倉京子:ブラジル・ノルデステ地方における日系ブラジル人の生活習慣と健康、第62回公衆衛生学会総会、2003年10月22日

朝倉京子:看護学領域におけるセクシュアリティ概念、お茶の水女子大学21世紀COEプログラムプロジェクトCワークショップ、2003年11月8日

中島紀恵子(南裕子氏特別講演座長):最新の看護と保健医療政策における老年看護の課題,日本老年看護学会第8回大会,兵庫,2003年11月

中島紀恵子(一般口演座長):「痴呆介護と人材育成」ポスターセッション6題,日本痴呆ケア学会第4回大会,仙台,2003年11月

〔共同研究〕

＜中島紀恵子＞

豪雪地帯における高齢者の居宅での保健医療福祉サービスの効果的提供

平成16年度看護研究交流センター事業 主任研究者 中島紀恵子

(平成14年9月からの2年間の継続研究で現在に至る)

＜中川泉＞

豪雪地帯における高齢者の居宅での保健医療福祉サービスの効果的提供

平成16年度看護研究交流センター事業 主任研究者 中島紀恵子

(平成14年9月からの2年間の継続研究で現在に至る)

在宅神経難病患者に対し訪問看護での肺理学療法をモデル実施して

飯塚俊子・伊藤里江子・中川泉(2004年2月から現在に至る)

＜朝倉京子＞

看護師資格試験における良質な問題の作成システム及びプール制導入に関する研究

(2002年4月～2004年3月) ;平成14年度～15年度

厚生労働科学研究費補助金

医療技術評価総合研究事業 主任研究者 濱田悦子

更年期女性の健康課題の分析と看護プログラムの開発(2003年6月～現在に至る) ;科学研究費補助金基盤研究(B)(2) 主任研究者 野地有子

「多様なセクシュアリティ」に関する研究(2003年4月～現在に至る) ;お茶の水女子大学

21世紀COEプログラム ジェンダー研究のフロンティア C-6 主任研究者 根村直美

「ジェンダーで読む健康/セクシュアリティ」研究(2002年4月～現在に至る) ;お茶の水女子大学ジェンダー研究センター 研究プロジェクト 主任研究者 根村直美

豪雪地帯における高齢者の居宅での保健医療福祉サービスの効果的提供(2003年9月～現在に至る) ;平成15年度看護研究交流センター事業 主任研究者 中島紀恵子

＜大友優子＞

大友康博・大友優子:「豪雪地帯における社会的援護を要する人々のための保健医療施策と事業の再編方向に関する研究」(2003年に引き続き継続)

(8) 一般講演・社会活動

① 学会

学会活動(平成16年度現在)

<中島紀恵子>

日本老年看護学会理事長  
日本保健医療行動科学会理事  
日本老年社会科学会理事  
日本痴呆ケア学会理事（16年度、学術集会長）  
日本在宅ケア学会評議員  
日本看護研究学会評議員  
日本看護科学会評議員

<中川 泉>

日本看護学会  
看護科学学会  
日本保健医療行動科学会

<朝倉京子>

日本看護科学学会  
日本保健医療行動科学会  
日本保健医療社会学会  
日本赤十字看護学会  
看護学教育学会  
日本公衆衛生学会

<大友優子>

日本国際保健医療学会  
日本社会福祉学会  
② 委員会活動

<中島紀恵子>

厚生労働省医療技術評価総合研究事前、中間、事後委員会評価委員：H15年4月～  
日本看護系大学協議会ファカルティ・ディプロップメント(FD)委員会委員：H15年5月～  
日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定検討委員会委員：H15年10月～  
厚生労働省 医療技術評価総合研究評価委員  
新潟日報社読者紙面委員会委員  
上越市都市計画審議会委員  
上越市総合計画審議会委員  
(社)日本社会福祉教育学校連連盟理事  
(財)日本訪問看護振興財団評議員  
NPO法人北海道痴呆性高齢者グループホーム協議会顧問  
(財)ぼけ予防協会評議員  
(社)呆け老人をかかえる家族の会理事  
国際アルツハイマー病協会第20回大会国際会議（京都、2004）組織委員会委員／プログラム  
部会副委員長

<中川 泉>

「上越市住宅マスタープラン」策定検討委員会 委員

2003年3月3日～2004年3月3日

③ 教育活動

<中島紀恵子>

新潟県看護協会「看護の日」記念講演:ケアの時代～看護職を育てること・育つこと,新潟,2002年5月16日

(財)日本訪問看護振興財団平成14年度質向上のための技術セミナー:在宅痴呆性老人の看護,東京,2002年6月21日

新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健推進分野主催公開シンポジウム基調講演「健康日本21と地域歯科保健～雪・米・歯,よっていかんかね 板倉町」:住民主体の健康づくり～やる気,元気をいかに支援するか,板倉町,2002年7月27日

新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会特別講義:看護実践と看護研究のつながり,新潟,2002年9月27日

特定非営利活動法人ホームファミリーケア協会シニア・ピア・カウンセリング研修2002年短期集中基礎講座:高齢者の痴呆とその対応,新潟,2002年9月28日

2002年NCS医療情報システムフェア記念講演会:家族介護力を見直す,新潟,2002年10月23日

新潟県保健所長会議講話:看護学教育の展望と課題,新潟,2002年11月8日

新潟県看護協会佐渡地区協会創立20周年記念講演:看護職が輝くケアの時代に向かって,佐渡,2002年11月9日

世界アルツハイマーデー記念講演会:介護する人へのケアが痴呆の人にもなるための作戦,仙台,2002年11月10日

(財)日本訪問看護振興財団公開シンポジウム:痴呆性高齢者の看護職能教育を考える,東京,2003年3月15日

新潟県立看護大学開学2周年記念講演(南裕子・中島紀恵子:講演と対論):地域に根ざした看護の発展をめざして,2003年7月26日

看護職員確保対策事業担当者会議講師:県立看護大学における地域看護実習(含ふれあい実習)等について,新潟,2003年3月19日

新潟大学大学院医歯学総合研究科第4回「シルバーからゴールドパワーを引き出そう」:講演「老と老の介護を楽に楽しく」,新潟,2003年4月20日

新潟県小規模施設看護職員実務研修(糸魚川圏域):看護職員の倫理とは,糸魚川,2003年6月11日

新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会特別講義:看護実践能力の充実に向けて,2003年8月18日

同講習会:看護論,2003年9月2日

頸南病院10周年記念特別講演:高齢者ケアの将来像,新井,2003年9月6日

平成15年度全国保健師長会新潟県支部研修会:看護研究への取り組み～日々の活動をどう研究としてまとめていくか,新潟,2003年9月20日

新潟県痴呆高齢者グループホーム協議会定期研修会:痴呆ケアに関わるスタッフに求められる資質,上越,2003年9月21日

全国老人福祉施設協議会介護チーフスキルアップ研修会:ターミナルケアの形態と方法,東京,2003年10月8日

上越地域医療センター病院:老年看護の基本,上越,2003年10月23日

老人クラブ中頸ブロック指導者研修会:75歳になってもいきいき生きるコツと技,清里村,2003年11月17日  
新潟県老人福祉施設協議会第9回新潟県老人福祉施設研究大会:痴呆ケアの質保証のための戦略,新潟,2003年12月2日

新潟県立看護大学看護研究交流センター生涯学習支援事業一般公開講座:サクセスフル・エイジングへの挑戦「もしもに備えて～介護が必要になったとき」,2003年12月13日

<中川泉>

新潟県立看護大学看護交流研究センター一般公開講座:介護される両親が見せてくれた人間の奥行き,上越市,2003年2月15日

平成14年度介護支援専門員現任研修(糸魚川地域研修):ケアマネジメントにおける支援の実際―スパービジョン方式を取り入れる 講義及び演習,糸魚川市,2003年2月18日

川西町家族介護支援事業 家族介護教室及び介護者交流会:介護される両親が見せてくれた人間の奥行き,川西町,2003年7月2日

平成15年新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会:看護論,上越市,2003年8月22日

平成15年度介護支援専門員現任研修(糸魚川地域研修):モニタリングの視点に立ったケアプラン作成・評価 講義及び演習,糸魚川市,2003年12月15日

<朝倉京子>

日本赤十字看護大学大学院看護学研究科 看護行政論講義(2002年6月)

平成14年度小規模施設看護職員実務研修講義:看護職員の倫理,2002年11月17日

新潟県立看護大学 看護研究交流センター生涯学習支援事業:男女共同参画社会と看護専門職,2003年1月25日

新潟県立看護大学 看護研究交流センター生涯学習支援事業:看護の原理とジェンダー,2003年7月12日

新潟県立看護大学 看護研究交流センター専門講座:看護研究の基礎知識,2003年7月7日

平成15年度看護職員臨地実習指導者養成講習会:看護の概念、看護論,2003年7月11日

<大友優子>

ポラリス保健看護学院非常勤講師:「疫学保健統計」

④ その他の社会活動

<中川 泉>

上越・新井地域訪問看護勉強会の立ち上げと定期開催

2003年5月から現在に至る。

東京大学大学院医学系研究科 地域看護学教室 客員研究員(2002年4月から現在に至る)

<朝倉京子>

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究協力員(2002年4月～現在に至る)

(9) 今後の課題

① 教育活動

平成17年度に予定していた基礎看護学実習Ⅰの実習地、にいがたねりんピックは、大学が位置する上越市から距離のある村上市で開催されることが決定しており、実習を予定通り実施することが困難である。そのため、平成17年度に向けて基礎看護学実習Ⅰの実習プログラムの再構築を行う。

完成年次に向けて、これまでの授業構成と内容、担当者等を再検討する。

平成17年度に予定されている、基礎看護学講座担当の専門ゼミナール、専門実習、卒業研究について、その目標や方法について具体的に検討する。

#### ② 大学と講座の管理活動

平成15年に引き続き、大学の管理を遂行する。

講座の円滑な運営に向けて、講座の協力体制を強化する。

#### ③ 研究活動

本講座の担当科目は、在宅ケア論、看護倫理、看護科学史、国際保健、看護行政論とそれらを統合的に経験するための基盤実習（基礎看護学実習Ⅰ及びふれあい実習）である。本講座はひとつの講座ではあるが、担当している科目が、ひとつの研究領域をなしているといってもよく、他の専門科目の講座がひとつの学問分野でまとまっているのとはありようが異なっているため、本講座では、各教員がそれぞれ自分の専門分野の研究を積み重ね各自の担当科目への還元を図ってきた。今後は、講座が担当する科目全体で、看護概論（原論）としての目標を達成することを意識しながら、各教員の研究が有機的に関連するよう議論を進める。

### 4 実践基礎看護学講座

#### (1) 教員構成

堀 良子	助教授		
水口 陽子	講師	松下 由美子	講師（平成16年1月1日付け採用）
岡村 典子	助手	籠 玲子	助手（平成15年4月1日付け採用）
山本 澄子	助教授		（平成15年3月31日付け退職）
熊倉 みつ子	講師		（平成15年3月31日付け退職）

#### (2) 講座運営の経過

実践基礎看護学講座は、看護技術や看護管理など看護学を実践に具体化するための方法論の教育を担当している。特に主たる役割は大学入学後の2学年で基礎的な看護技術を修得させることである。看護技術演習は構成員全員で常時共同して教育にあたるため、全員の合意と協働が教育の良否を決定すると考え、開設時から定例会議を密にして時間を費やし、教育方法や考え方の合意、シラバスの検討、具体的な教授方法を検討してきた。その中で自分達の教育を具現化したテキスト作りや学習支援教材の開発、実習室の改修など教育環境整備にも力を注いだ。

#### (3) 授業について

##### ① 開講した教科目

平成14年度、平成15年度、平成16年度

・「看護技術論」（1単位 必修30時間、第2 Semester）

看護技術とは何か、人間に対し看護技術を適用することとは何かを考えさせるとともに、人間の健康と生活を整えることの意義と方法について看護援助の理論的基礎を教授している。また、看護技術の開発や洗練を指向する素地を養うため、少人数によるワーキングを通じて考察することなども授業に取り入れている。

・「基礎看護技術演習Ⅰ」（2単位 必修30時間、第2 Semester）

疾病や障害により生活行動援助を必要とする対象に対し、対象のニーズと安全・安楽・自立を踏まえた看護援助を、状況に対応して実施できるための技術の基本を身につけることを目標とし、

対人関係の技術、看護場面の共通技術、生活援助技術を演習で学ぶ。看護技術論と基礎看護技術演習Ⅰは同時並行で進むため、ある技術適用に必要な基礎知識を技術論で学習した後にその技術の基本を演習で実際に行って修得するという連関で授業を組み立てている。

・「基礎看護技術演習Ⅱ」（2単位 必修60時間、第3 Semester）

基礎看護技術演習Ⅱでは、診療に伴う援助技術および健康査定に必要なフィジカルアセスメント技術の基本を学ぶ。また看護実践の科学的探求方法である看護過程展開の技術の基礎的理解を図ることを目標としている。演習Ⅰから演習Ⅱを通して、基礎から応用、単純から複雑、抽象から具象などの方向性をもって、徐々に修得する技術の量と応用力の増大を図っていくような教育の組み立てを考え実施している。

② 実習科目

平成15年度、平成16年度

・「基礎看護学実習Ⅱ」（3単位 必修135時間 第3 Semester）

病院での看護実習はこの基礎看護学実習Ⅱが初めてとなる。そのため、病院とはどのような組織・機能をもつところなのか、各職種の役割および看護活動がどのように展開されているのかをまず知ることから始まる。院内見学や病棟の看護活動見学実習を経て患者1名を受け持って生活援助を主体とした看護過程を展開する実習を行う。また、実際の患者に援助を実施することも初めてであり、看護を学ぶ学生としてふさわしい責任ある態度を身につけることも併せてこの実習の目標としている。初めての实習ゆえの患者の安全確保やきめ細かな教育の実現のため1病棟あたり5～6名の学生配置にし、そのため現状ではゲストスピーカーの実習補助教員を3名導入して実施している。結果実習後の学生の満足度は高く臨床側からの評価も良い結果が得られた。

しかし、看護技術論と基礎看護技術演習Ⅰを理論から実践への関係性をもって組み立てているが、同時並行で授業が進行することから有機的なつながりをどう上手く保つか難しいのが実情である。特に看護技術論の内容の精選と構築が課題である。

（4）教学管理

平成14年度

堀 良子 教務委員会委員、看護研究交流センター運営委員・教育研修部会員

水口陽子 実習部会員

平成15年度

堀 良子 教務委員会委員、研究交流委員会委員、看護研究交流センター教育研修部会員

水口陽子 実習部会員

（5）講座管理

開設の初年度、助教授2、講師2、助手1の5名で出発した体制が、助教授、講師2名の退職者があり、15年度は助教授1、講師1、助手2の体制で12月まで運営することとなった。16年1月には講師1名が加わり5名体制になったが、そこに至るまでの講座運営上、教育活動に支障をきたさないための努力と工夫を必要とした。「静脈血採血」、「筋肉注射」の演習への他講座からの応援、および基礎看護学実習Ⅱにおけるゲストスピーカー対応の補助教員を3名導入した。この人選の困難や、指導経験のない新入教員を含め、全員が実習指導を滞りなく行えるよう「指導要項」の作成や十分なオリエンテーション、研修等を実施し乗り切った。

授業においては、項目毎の担当者を決め役割分担の下で担った。担当者はシラバスに則り教授計画を立案し、教材・授業資料を考案して、副担当(助手)と協力して講義・演習を実施する。演

習は全員で教育にあたるが、講義においても副担当は授業に参加し教育内容、方法等を学ぶ機会とするように奨励した。また担当以外の授業も参加をすることを奨励し互いの教育内容を知ること、教育評価の土壌作りとした。

今後は教材としての有用性の高い項目から順次整備していくこと、およびコンピュータを用いた学習とベッドでの練習が至近距離で同時に可能なような実習室の学習環境作りが課題となっている。

#### (6) 研究活動

##### ① 研究活動の現状

##### ② 学長特別研究費に基づく研究活動

平成15年度

堀 良子 山本澄子 熊倉みつ子 水口陽子 岡村典子

「ドレイファスモデルを枠組みとした看護技術教育の構築と学習支援システムの開発」

堀 良子

「他者による口腔ケアの必要な入院患者の口腔衛生の改善に関する研究—口腔衛生関連要因と口腔健康状態との関連—」

水口陽子

「日本における看護学実習に関する研究の現状分析—グループを対象とする教授活動に関する文献の検討—」

岡村典子

「看護職養成課程の変遷—教員養成課程との比較を中心に—」

堀 良子 水口陽子 岡村典子 籠玲子

「ドレイファスモデルを枠組みとした看護技術教育の構築と学習支援システムの開発」

(15年度継続課題)

岡村典子 大久保明子 阿部正子 金井幸子 柏木夕香 酒井禎子

「看護を基盤においた「いのち」に関する諸問題の学際的な—考察」

堀 良子

「他者によるケアが必要な入院患者の口腔衛生の改善に関する研究」

岡村典子

「看護系大学における基礎看護技術修得に向けた教育に関する検討」

#### (7) 研究業績

〔論文〕

堀 良子. 気道感染予防の観点から見た口腔ケアの研究. 日本感染看護学会誌; 2002.(1)1: 14-24.

水口陽子. 看護学実習グループの人間関係に関する文献研究. 新潟県立看護短期大学紀要; 2004.9:3-11

〔報告書〕

堀 良子, 山本澄子, 熊倉みつ子, 水口陽子, 岡村典子. ドレイファスモデルを枠組みとした看護技術教育の構築と学習支援システムの開発. 平成14年度学長特別研究費研究報告書; 2003. 13-4.

堀 良子, 山本澄子, 熊倉みつ子, 水口陽子, 岡村典子. 医療管理を要する訪問看護事例に対する看護職者の看護技術の現状と教育研修ニーズ. 看護研究交流センター事業活動・研究報告書; 2003. 71-4.

堀 良子. 他者による口腔ケアの必要な入院患者の口腔衛生の改善に関する研究—口腔衛生関連要因と口腔健康状態との関連—. 平成14年度学長特別研究費研究報告書; 2003. 55-8.

水口陽子. 日本における看護学実習に関する研究の現状分析—グループを対象とする教授活動に関する文献の検討—. 平成14年度学長特別研究費研究報告書; 2003.59-60.

岡村典子. 看護職養成課程の変遷—教員養成課程との比較を中心に—. 平成14年度学長特別研究費研究報告書; 2003. 61-4.

堀 良子, 水口陽子, 岡村典子, 籠玲子. ドレイファスモデルを枠組みとした看護技術教育の構築と学習支援システムの開発. 平成15年度学長特別研究費研究報告書; 2004.14-21.

岡村典子, 大久保明子, 阿部正子, 金井幸子, 柏木夕香, 酒井禎子. 看護を基盤においた「いのち」に関する諸問題の学際的な一考察. 平成15年度学長特別研究費研究報告書; 2004. 22-7.

堀 良子. 他者によるケアが必要な入院患者の口腔衛生状態の改善に関する研究. 平成15年度学長特別研究費研究報告書; 2004. 88-94.

岡村典子. 看護系大学における基礎看護技術修得に向けた教育に関する検討. 平成15年度学長特別研究費研究報告書; 2004.95-102.

〔その他の論文〕

堀 良子. 病原微生物の侵入経路と感染の成立. 月刊ナーシング; 2002. (22)12:32-5.

堀 良子. 感染防止における看護師の役割. 月刊ナーシング; 2002. (22)12: 36-9.

堀 良子. 基本的衛生と環境の清潔. 月刊ナーシング; 2002. (22)12: 46-52.

堀 良子. 気道感染防止の基礎. 月刊ナーシング; 2002. (22)12: 54-61.

堀 良子. 意識障害患者, 経管栄養患者の気道感染防止ケア. 月刊ナーシング; 2002. (22)12: 62-67.

堀 良子. ワークブック基礎看護技術—口腔ケア—. クリニカルスタディ; 2003. (24)6: 70-1.

堀 良子. ワークブック基礎看護技術—包帯法—. クリニカルスタディ; 2003. (24)6:88-9.

水口陽子. ワークブック基礎看護技術—褥創予防・ケア—. クリニカルスタディ; 2003. 24(6): 86-7.

水口陽子. ワークブック基礎看護技術—吸入—. クリニカルスタディ; 2003. 24(6): 94-5.

岡村典子. ワークブック基礎看護技術—睡眠・休息・安静—. クリニカルスタディ; 2003. (24)6: 58-9.

〔学会発表〕

岡村典子. 自主シンポジウム「こどもの心身症を考える(2)」指定討論者. 第35回日本カウンセリング学会; 2002. 8.

堀 良子. 他者による口腔ケアの必要な入院患者の口腔内の健康状態評価. 日本看護技術学会第2回学術集会; 2003. 9.

堀 良子. 介助の必要なケア対象者の口腔ケアに関する看護職者の認識. 新潟県看護協会平成15年度看護研究学会集録; 2003. 11. 207-10.

岡村典子. 自主シンポジウム「こどもの心身症を考える(3)」シンポジスト. 第36回日本カウンセリング学会; 2003. 11.

籠玲子, 堀 良子, 水口陽子, 岡村典子. 医療管理を要する訪問事例に対する看護職者の看護技術の現状と教育ニーズ. 新潟県看護協会平成15年度看護研究学会発表収録; 2003. 11. 13-6.

堀 良子. 介助の必要な患者の口腔ケアに対する看護職者の認識. 第23回日本看護科学学会; 2003. 12.

岡村典子. 看護職養成課程の変遷—教員養成課程との比較を中心に—. 第23回日本看護科学学会学術集会; 2003. 12.

堀 良子. 入院患者の口腔衛生状態影響要因および口腔健康状態と病因菌保有状況との関連. 第4回日本感染看護学会学術集会; 2004. 1.

水口陽子. 看護学実習に関する研究の現状—グループを対象とする教授活動に関する文献の検討—. 日本医学看護学教育学会; 2004. 3.

### ③ 現状と課題

研究活動について当講座は、大学内の学長特別研究費を得ての研究や看護研究交流センターの地域課題研究等積極的に申請し実施しているところである。文部科学省科学研究費助成研究は申請時期が講座の最も繁忙な実習時期と重なり申請自体がこれまで消極的となっていたこと、申請するだけの研究の蓄積がまだこれからのメンバーが多い状況もあることなどから、今後の課題として挙げられる。研究組織がまだまだ弱体であるため将来を展望して各人の研究能力育成等も視野に入れた方向を考える必要がある。

#### (8) 社会活動

##### ① 学会・研究会

<堀良子>

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本感染看護学会、日本保健医療行動科学学会、日本環境感染学会

<水口陽子>

日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本環境感染学会、テレトピア・在宅ケア学会

<松下由美子>

日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護管理学会、日本環境教育学会、医療廃棄物研究学会、日本看護・社会・政策学会、日本助産学会

<岡村典子>

日本看護科学学会、日本看護技術学会、日本看護学教育学会、日本カウンセリング学会、日本心身医学会

<籠玲子>

日本看護研究学会

##### ② 委員会活動

堀 良子:平成15年度日本看護科学学会用語検討委員会ワーキンググループ員

岡村典子: 特定非営利活動法人 長野県臨床心理カウンセリング研修センター理事 平成15年4月～(現在に至る).

堀 良子:平成16年度上越市休日急患診療所運営委員

##### ③ 社会教育活動

堀 良子: (出前講座)上越市こども福祉課 講演「感染予防と衛生ケア」平成15年6月.

水口陽子:一般公開講座 講演「ナイチンゲールの看護観と女性」平成15年8月

堀 良子:神経難病におけるリハビリテーションと心理的サポート技術全国研修会 講演「神経難病における口腔ケアと感染コントロール」於国立療養所犀潟病院 平成14年8月

堀 良子:兵庫県養護学校教員研修会講演「感染症とその予防」於兵庫県立明石養護学校 平成14年11月.

堀 良子:新潟県看護協会訪問看護師養成講習会講義「看護過程」6時間 平成15年4月、「感染看護」3時間 平成15年8月.

堀 良子:平成15年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会 講義「看護過程」12時間 平成15年8月、「実習指導の実践1 基礎看護学」6時間 平成15年9月.

堀 良子:新潟県立柿崎病院 看護研究指導、発表会講評 平成14年12月.

新潟県立十日町病院看護部 講演「臨床における看護研究」平成15年5月.

新潟県立十日町病院 平成15年度看護研究指導、発表会講評 平成16年2月.

岡村典子:(財)全国農村保健研修センター 実践に役立つカウンセリング研修会 講師 平成14年4月～(現在に至る).

岡村典子:新潟県立中央病院プリセプター研修 講師 平成16年2月

上越地域居宅介護支援事業推進協議会 「介護支援専門員の面接技法について」講師およびグループファシリテーター 平成16年2月.

## 5 母子看護学講座

### (1) 教員構成

	母 性	小 児
教 授	加城 貴美子	加固 正子
講 師	和田 佳子 笹野 京子	井上 みゆき
助 手	阿部 正子 高塚 麻由 西方 真弓 (平成14年10月1日付け採用)	大久保 明子 金井 幸子

### (2) 講座運営の経過

母子看護学講座は母性看護学領域と小児看護学領域の各教授が担当科目授業に責任をもって運営しているが教育環境整備及び教材を含む授業内容については、合同会議により話し合った。

母子講座では、新生児看護論など内容的に重なり合う部分については、オムニバスで授業を担当している。

### (3) 小児看護学の授業について

#### ① 開講授業科目

平成15年前期 小児看護学Ⅰ (1単位(15時間)、第3セメスター)

平成15年後期 小児看護学Ⅱ (2単位(60時間)、第4セメスター)

平成16年前期 小児看護学演習 (1単位(30時間)、第5セメスター)

平成16年前期 新生児看護論 母性看護学領域と分担 (1単位(30時間)、第5セメスター)

平成16年後期 小児看護学実習 2施設利用 (3単位(135時間)、第6セメスター)

#### ② 授業内容について

全学的に行っている授業満足度調査を参考に、学生の要望を取り入れた授業設計をしている。その他、出席票には毎回の授業についての感想や質問事項を記載して提出してもらっている。

また、教員間の授業案や配布資料の交換を行い、内容の重複を防ぎ、授業の連携を円滑にしている。

また、小児看護学Ⅱでは親が「子どもを喪失する」体験から看護を学ぶことを目的として、子どもを亡くした母親をゲストスピーカーとして講義に招いた。学生には、当事者が語る事実から看護を主体的に考えられる機会になった。

### (4) 母性看護学の授業について

#### ① 平成15年度、16年度新潟県立看護大学の教育活動

母性看護学Ⅰ (第3セメスター) : 加城、和田

母性看護学Ⅱ (第4セメスター) : 加城、笹野、和田、丸橋 (ゲストスピーカー)

授業では、教科書を指定せず、教授内容ごとに資料を配布した。当該科目は他の科目との連携

もあるが、独自に覚えることや理解しなければならないことが多く学生は学習方法に苦心していたようである。妊産褥婦や乳幼児や子どもと接する機会が少ない今日、学生が対象をより理解することが出来るようにビデオなどの視聴覚教材の使い方についても学生の立場にたって有効な使い方の工夫が必要である。

今後は、専門支持科目からの積み重ねや専門科目同士の連携について検討し、効率的で効果的な授業展開をする必要がある。また、小児看護学は母性看護学の共同授業となる新生児看護学の授業の他、主な症状に対する看護や障害をもつ対象の看護では、成人看護学や精神看護学領域、あるいは地域看護学の母子看護学分野との重なりがあるため、具体的な授業案の公開と関係教員との調整が不可欠になる。

#### (5) 教学管理

##### ① 小児看護学教員の学内委員の役割

加固は平成14～15年度にわたり入試・就職委員長としての役割を担ってきた。また、県内高校への大学説明会、高校生対象の模擬授業の企画及び、オープンキャンパスの実施した。さらに、情報ネットワーク委員、FD委員、実習部会委員として、実習要項作成にあたった。

井上は平成14～15年度学年担任として、一期生のクラスへの支援や学生自治委員会並びに学園祭実行委員会立ち上げなどに努めた。

##### ② 母性看護学教員の学内委員の役割

加城は平成14～15年度にわたり、教務委員、研究交流委員、FD委員、セクシャルハラスメント委員を努めた。また、研究交流委員の副委員長として、学長特別研究費研究報告書作成にあたった。FD委員としては、学内の授業評価実施および結果のまとめ、全学的PBLチュートリアル授業開始に向けた準備と運営にあたった。また、実習部会委員として、実習要項作成にあたった。

#### (6) 研究活動

##### ① 学外研究費による活動

文部科学省科学研究費助成課題研究

加固正子:「看護師による小児救急『電話トリアージ・マニュアル』の有用性」(課題番号00233677)平成16年度から2年間

阿部正子:「体外受精を受療している女性の治療を継続する意思決定の分析」(課題番号15791312)平成15年度から2年間

厚生労働省平成13年度、14年度、15年度成育医療研究委託事業

井上みゆき:「重症生涯新生児医療のガイドラインとハイリスク新生児の診断システムに関する総合的研究」(研究代表者:田村正徳)

##### ② 学長特別研究費による活動 (14年、15年度)

母性看護学教員は、

加城貴美子, 高橋初美, 小林美代子, 和田佳子, 笹野京子, 阿部正子, 高塚麻由, 橋本明浩:新潟県内の山村・漁村の助産介助の歴史的比較検討(平成14年度)

和田佳子, 笹野京子, 加城貴美子, 加藤光寶, 山本知穂, 上原美樹:看護学生の自己成長に関する調査(平成14年度)

阿部正子:体外受精を受療している不妊女性の治療継続の意思決定に関する研究(平成14年度)

加城貴美子, 高橋初美, 小林美代子, 笹野京子, 和田佳子, 阿部正子, 高塚麻由, 西方真弓:助産師教育に生かす新潟県内の助産史調査(平成15年度)

和田佳子, 笹野京子, 加藤光寶, 加城貴美子, 直成洋子, 飯田智恵, 樺沢三奈子:看護学生の自己成長に関する研究(平成15年度)

西方真弓:母体搬送となった妊産婦の搬送時から分娩までの心理的变化に関する研究(平成15年度)

岡村典子, 大久保明子, 阿部正子, 金井幸子, 柏木夕香, 酒井禎子:看護を基盤に置きたいのちに関する諸問題の学際的な一考察(平成15年度)

小児看護学教員では、

山本淳子・加固正子:異文化看護の視点を取り入れた看護英語教材の開発、平成14年度新潟県立看護大学学長特別研究費研究報告書、2003.6月

井上みゆき:新生児看護の倫理、重症障害新生児の最善の利益とは何か、平成14年度 学長特別研究費研究報告書 79-82,2003.6月

大久保明子・加固正子・金井幸子:小児看護学におけるマルチメディア教材の開発—生命予後不良の疾患を持つ子どもと家族の看護、NICU看護に関する教材—、平成14年度学長特別研究費 研究報告書,25-28,2003.6月

### ③ 看護研究交流センター研究費による活動

小児看護学領域では看護研究地域課題において、テーマを「小児の救急医療に関する研究」にテーマを絞って、平成14年度から継続して共同研究を実施している。平成14年度は地域基幹病院の救急外来看護師を対象に小児救急医療について困難に感じていることを調査した。平成15年度は上越地域の幼児をもつ保護者約3000名を対象に小児救急医療に対する認識や要望について調査を行い地域との連携に努めた。

加固正子・大久保明子・金井幸子:救急外来看護師が感じている小児看護の課題、平成14年度新潟県立看護大学看護研究交流センター事業報告書、2003.6.

加城貴美子, 高橋初美, 小林美代子, 和田佳子, 笹野京子, 阿部正子, 高塚麻由, 橋本明浩, 関川ミサ子, 高橋由美, 高舘陽子, 中島智子, 村山郁子, 小川雅子, 坪井秀和, 市村雅子, 中條美奈子:女性に関する教育プログラム開発に関する基礎的研究(平成14年度)

加城貴美子, 高橋初美, 小林美代子, 和田佳子, 笹野京子, 阿部正子, 高塚麻由, 西方真弓, 関川ミサ子, 高橋由美, 高舘陽子, 中島智子, 村山郁子, 小川雅子, 河端守明, 市村雅子:女性に関する教育プログラム開発に関する基礎的研究(平成15年度)

## (7) 研究業績

### ① 小児看護学

〔著書〕

加固正子(共著):新体系看護学28 小児看護学①小児看護学概論・小児保健、第6章小児の発達段階に応じた世話と健康増進のための看護(pp130-181)(全219頁)、メヂカルフレンド社、2003.1.

加固正子(共著):新体系看護学29 小児看護学②健康問題をもつ小児の看護、第2章 健康問題・障害をもつ小児の発達段階に応じた看護(pp41-70)(全503頁)、第7章11節 被虐待が疑われる小児と家族(pp492-499)(全503頁)メヂカルフレンド社、2003.1月

〔論文発表〕

加固正子・大久保明子・金井幸子:救急外来看護師が感じている小児看護の課題分析、外来小児科、7(1)、53-55、2004.3月

井上みゆき:子どもが医療事故に遭ったある母親の体験、日本小児看護学会誌、11(2)、34-39、2002.9月

- 井上みゆき:死に至るリスクが高い新生児の家族ケア,家族看護1(2),43-48,2003.9月
- 井上みゆき:長期入院の子どもを持つ両親のケア,NICUmate,7,7,2002.11月
- 井上みゆき:18トリソミーをもつ子どもの倫理的意志決定に参加した母親の体験,NeonatalCare,17(3),278-282,2004.3月
- 和田佳子・大久保明子:母性および小児看護学実習における看護学生の対児感情との変化,新潟県立看護短期大学紀要 第8巻,11-16,2002.10月
- 大久保明子・坂本絵美子・得丸定子:死別のトラウマに関する教材開発,日本教材学会 教材学研究 第14巻,173-176,2003.3月
- 金井幸子:乳幼児期の子どもをもつ母親の自己評価と夫に対する評価,小児保健研究;62(5),552-557,2003.9月
- 金井幸子:周期性嘔吐症児の怒りの表出と児の怒りに対する母親の受容,日本小児看護学会誌;12(2),39-44,2003.9月
- 金井幸子・大久保明子・加固正子:心因性症状を呈する児の母親に対する育児相談の検討,日本看護学会論文集33回小児看護,36-38,2003.2月
- 金井幸子,川井進:小児科外来における心理療法の導入,外来小児科;6(1),38-40,2003.3月
- 金井幸子・大久保明子・加固正子:入院している子どもの母親へのコラージュ作成効果,日本看護学会論文集33回小児看護,92-94,2004.2月
- 金井幸子:「突然怖い顔に変貌する」3歳女兒の遊戯療法過程,中京大学臨床心理相談室紀要,2,25-32,2002.8月
- 〔その他〕
- 井上みゆき 信濃毎日連載記事 子守唄を歌いたい「障害のある子を授かって 手術はしない」2003,8月  
〔学会発表〕
- 加固正子・大久保明子・金井幸子:救急外来看護師が感じている小児看護の課題分析,外来小児科学会,2003.8月
- 水野貴子・金子美子・井上みゆき・高橋初美:NICUの保育器と看護師の手指の細菌調査,第33回日本看護学会—小児看護—,2002,9月
- 井上みゆき:生命的に予後の悪い新生児の積極的な治療の停止・制限に関するガイドラインの検討—看護職の意見—,第22回日本看護科学学会学術集会,2002,12月
- 井上みゆき・内田美恵子:重症障害新生児の治療の停止及び制限に関するガイドラインの検討—よりよい決定へいたるための必要条件—,第12回日本新生児看護学会 交流集会,2002,12月
- 井上みゆき,18トリソミーを持つ子どもの気管内挿管に関する親の思い,第13回日本小児看護学会,2003,7月
- 井上みゆき,看護職が語る重症障害新生児の最善の利益,第23回日本看護科学学会学術集会,2003,12月
- 井上みゆき 第13回日本新生児看護学会学術集会 座長 2003,11月
- 大久保明子・得丸定子:「子どものターミナルケア」の教材開発と授業評価,新潟県看護研究学会,2002.11月
- 大久保明子・得丸定子:予後不良の子どもに関する看護教育—教材開発と授業実践・評価—,日本家庭科教育学会,2003.6月
- 大久保明子・得丸定子:「子どものターミナルケア」のためのCD-ROM教材の開発とその有用性—講義用・個人学習用教材—,第34回日本看護学会—看護教育—,2003.8月

和田佳子・大石武信・大久保明子・花沢成一:母性・小児看護学実習が看護学生の対児感情に及ぼす影響,日本心理学会第67回大会,2003.9月

大久保明子・得丸定子:子どものターミナルケアに焦点をあてた教材開発とその有用性,第26回日本死の臨床研究会,2002.11月

大久保明子・得丸定子:子どものターミナルケアに関する個人学習用CD-ROM教材の開発,第27回日本死の臨床研究会,2003.11月

福島由梨子,金井幸子:外来小児科での母子相互法を用いたコラージュ作成の試み,第49回日本小児保健学会,2002.11月

金井幸子,大久保明子・加固正子:小児看護学実習評価表を用いた実習目標達成度の検討—学生の自己評価と教員評価の比較—,日本小児看護学会第13回学術集会,2003.7月

金井幸子,土屋千枝,川井進:外来小児科におけるコラージュ作成の効果,第13回日本外来小児科学会,2003.8月

相沢美代子,米俣由貴,佐藤麻衣子,樋口由香里,中村里美,和栗恵美,金井幸子,加固正子:在宅療養中の乳幼児脊髄性筋萎縮症児への成長・発達を促す援助—事例を通じた遊びを中心とした関わり

〔報告書〕

井上みゆき・内田美恵子:重症障害新生児の治療の停止および制限に関するガイドラインの検討—NICUの看護職者への質問紙調査—,厚生労働省・成育医療研究「重症障害新生児医療のガイドライン及びハイリスク新生児の診断システムに関する総合的研究」報告書,2003.3月

井上みゆき・内田美恵子:重症障害新生児の治療の停止及び制限に関するガイドラインの検討—よりよい決定へいたるための必要条件—,厚生労働省・成育医療研究「重症障害新生児医療のガイドライン及びハイリスク新生児の診断システムに関する総合的研究」報告書,2003.3月

船戸正久・竹内徹・窪寺俊之・井上みゆき 他15名:NICUにおける緩和的ケア～赤ちゃんにご家族に対する医療従事者の配慮—厚生労働省,成育医療研究班「重症新生児医療のガイドライン及びハイリスク新生児の診断システムに関する総合的研究」報告書 48-52,2004.3月

得丸定子・田宮仁・藤腹明子・カール・ベッカー・大久保明子他:「日本的いのち教育」のためのマルチメディア教材開発～自殺予防・トラウマに関する教材～,平成15年度松下視聴覚教育助成成果報告集,73-84,2003.3月

〔共同研究〕

加固正子・大久保明子・金井幸子:救急外来看護師が感じている小児看護の課題,平成14年度新潟県立看護大学看護研究交流センター事業,継続看護における連携システムの構築に関する研究,2002.6月～2003.3月

加固正子・大久保明子・金井幸子:新潟県上越地区における小児の夜間・休日救急医療サービスに対する保護者の要望,平成15年度新潟県立看護大学看護研究交流センター事業,継続看護における連携システムの構築に関する研究,2003.6月～2004.3月

## ② 母性看護学

〔論文発表〕

堀井満恵,笹野京子,筏井沙織,石井仁乃,長谷川ともみ:母親が児の泣き方を判別する能力獲得に関する要因の検討,富山医科薬科大学 4 巻 2 号,33-41,2002,4月.

阿部正子,宮田久枝,岡部恵子:女性の体外受精を継続する意思決定における価値体系,第33回日本

看護学会論文集,46-48,2002,12月.

和田佳子,大久保明子:母性および小児看護学実習における看護学生の対児感情の変化,新潟県立看護短期大学紀要第8巻,11-16,2002,12月.

阿部正子,宮田久枝:不妊の女性の不妊治療に対する「認知」に関する文献研究,新潟県立看護短期大学紀要第8巻,3-10,2002,12月.

炭谷靖子,笹野京子,成瀬優知:高校生の社会的スキルおよび自尊感情の状況と思いやり行動の関連検討,富山医科薬科大学5巻1号,33-41,2003,11月.

〔学会発表〕

加城貴美子,一柳起營,稲垣行一郎:自我状態と絵画描写の色彩との関連について,第27回日本交流分析学会(三重県),2002,5月.

一柳起營,加城貴美子,稲垣行一郎:自己成長エゴグラム(SGE)と分割脳理論との関連性の研究(第Ⅱ報),日本交流分析学会(三重県),2002,5月

笹野京子,松原志穂,炭谷靖子:1歳6ヶ月時点での日常生活とう蝕との関連—断乳によらないう蝕予防の検討のために—,第17回北陸母性衛生学会学術集会(石川県),2002,7月.

熊倉みつ子,飯吉令枝,和田佳子:男性の育児休業制度に関する認知度と活用状況—N県の地方公務員男性を対象とする調査から—,第33回日本看護学会—母性看護—(宮城県仙台市),2002,7月.

阿部正子,宮田久枝,岡部恵子:複数回の体外受精を受けている女性の思いの変化(第2報)—体外受精継続の意思決定とその価値体系—,第33回日本看護学会—母性看護—(宮城県仙台市),2002,8月.

小林美代子,高橋初美,和田佳子,笹野京子,阿部正子,高塚麻由,加城貴美子:絵画描写の色彩と自我状態に関する研究—助産師学生と看護師学生の比較—,第43回日本母性衛生学会学術集会(北海道旭川),2002,9月.

高橋初美,小林美代子,笹野京子,和田佳子,阿部正子,高塚麻由,加城貴美子:助産師学生と看護師学生とのとらえる父母子関係—絵画描写からみた形態標識—,第43回日本母性衛生学会学術集会(北海道旭川),2002,9月.

増田千春,林敦子,吉田美智子,山下純子,大野清美,萩原まさ実,笹野京子,炭谷靖子:ケアプランを作成しなかった問題領域とその判断根拠—ケアプラン作成率が中間に位置した問題領域での検討—,第33回日本看護学会抄録集(千葉県千葉市),2002,9月.

和田佳子,大石武信,花沢成一:看護婦イメージの時系列検討—入学時から卒業後の変化—,日本心理学会第66回大会(広島県広島市),2002,9月.

松原志穂,笹野京子,炭谷靖子:1歳6ヶ月児の母乳継続にかかわる因子の検討,第61回日本看護科学学会(東京),2002,10月.

和田佳子,笹野京子,加城貴美子:看護学生の絵画からみた親子関係と自我状態との縦断的研究(1)—母子関係による母性看護学実習前後の変化—,第22回日本看護科学学会(東京),2002,12月.

笹野京子,和田佳子,加城貴美子:看護学生の絵画からみた親子関係と自我状態との縦断的研究(2)—父子関係による母性看護学実習前後の変化—,第22回日本看護科学学会(東京),2002,12月.

和田佳子:妊娠・産褥期における伝統的母親役割観の夫婦間比較,第17回日本助産学会学術集会(沖縄県那覇市),2003,3月.

阿部正子,宮田久枝:不妊の女性が体外受精を継続する意思決定—治療に対する欲求の分析—,第17回日本助産学会学術集会(沖縄県那覇市),2003,3月.

石黒さゆり,西方真弓,細川孝子,吉川博子,柳瀬徹,益田陽子,田中菜穂子,橋本雅子,藤井青:産婦

人科領域におけるプレコシヨンのSSIサーベイランスによる評価,日本環境感染学会(神奈川県横浜市),2003,2月.

和田佳子,阿部正子,笹野京子,西方真弓,高塚麻由,加城貴美子:体験学習による教育効果の検討—3ヶ月間の基礎体温測定の実施—,第44回日本母性衛生学会(栃木県宇都宮市),2003,9月.

笹野京子,高塚麻由,和田佳子,西方真弓,阿部正子,加城貴美子:体験学習による教育効果の検討—妊婦体験ジャケット—,第44回日本母性衛生学会(栃木県宇都宮市),2003,9月.

宮田久枝,阿部正子:体外受精を受けている不妊女性の治療への認識,第48回日本不妊学会学術講演会(東京都),2003,10月.

中嶋文子,阿部正子,宮田久枝:不妊原因別にみた不妊治療中の女性の医療に対する要望,第44回日本母性衛生学会(栃木県宇都宮市),2003,9月.

山本澄子,住野清一,水野正延,飯吉令枝,和田佳子,川久保清,井上修二:肥満と生活習慣病—BMIによる高血圧,高血糖の合併—,第24回日本肥満学会(千葉県千葉市),2003,11月.

加城貴美子,和田佳子,笹野京子,阿部正子,西方真弓,高塚麻由,高橋初美,小林美代子:高校生における性教育の実態と高校生のニーズ—男女差による比較—,第18回日本助産学会(東京都),2004,3月.  
〔報告書〕

加城貴美子,高橋初美,小林美代子,和田佳子,笹野京子,阿部正子,高塚麻由,橋本明浩:新潟県内の山村・漁村の助産介助の歴史的比較検討—上越地方の大正・昭和初期生まれの開業助産婦の聞き取り調査—,新潟県立看護大学平成14年度学長特別研究費 研究報告書,19-20,2003,6月.

和田佳子,笹野京子,加城貴美子,加藤光寶,山本智穂,上原美樹:看護学生の自己成長に関する研究—調査1:尺度原案作成のための調査—,新潟県立看護大学平成14年度学長特別研究費研究報告書,21-24,2003,6月.

阿部正子:体外受精を受療している不妊女性の治療継続の意思決定に関する研究—意思決定における知識体系の分析—,新潟県立看護大学平成14年度学長特別研究費研究報告書,77-78,2003,6月.

加城貴美子,高橋初美,小林美代子,和田佳子,笹野京子,阿部正子,高塚麻由,西方真弓,橋本明浩,関川ミサ子,高橋由美,高舘陽子,中島智子,村山郁子,小川雅子,坪井秀和,市村雅子,中條美奈子:女性に関する教育プログラム開発に関する基礎的研究—高校生の性教育の知識とニーズ—,新潟県立看護大学看護研究交流センター平成14年度看護研究交流センター事業 活動・研究報告書,57-60,2003,6月.

加城貴美子,小林美代子,高橋初美,笹野京子,和田佳子,阿部正子,高塚麻由,西方真弓:助産師教育に生かす新潟県内の助産史調査,新潟県立看護大学平成15年度学長特別研究費 研究報告書,35-42,2004,6月.

和田佳子,加藤光寶,笹野京子,加城貴美子,直成洋子,飯田智恵,椛澤三奈子:看護学生の自己成長に関する研究—調査2:尺度開発の試み—,新潟県立看護大学平成15年度学長特別研究費 研究報告書,43-49,2004,6月.

西方真弓:母体搬送となった妊産婦の搬送時から分娩までの心理的变化に関する研究,新潟県立看護大学平成15年度学長特別研究費 研究報告書,103-108,2004,6月.

加城貴美子,和田佳子,阿部正子,高塚麻由,西方真弓,高橋初美,笹野京子,小林美代子,関川ミサ子,高橋由美,高舘陽子,中島智子,村山郁子,小川雅子,河端守明,市村雅子:女性に関する教育プログラムの開発に関する基礎的研究—高校の教諭による性教育の現状と今後の方向性—,新潟県立看護大学看護研究交流センター平成15年度看護研究交流センター事業 活動・研究報告書,65-72,2004,6月.

(8) 一般講演・社会活動

① 学会及び研究会

<加固正子>

日本小児看護学会、日本公衆衛生学会、日本看護科学学会、日本外来小児学会、日本こどもの虐待研究会

<井上みゆき>

日本看護科学学会、日本生命倫理学会、日本新生児看護学会、日本小児看護学会、日本看護学教育学会、トリソミーの会賛助会員

<大久保明子>

日本小児看護学会、日本看護技術学会、日本看護学教育学会、日本外来小児科学会、日本こども健康科学研究会、日本小児がん看護研究会、日本の死の臨床研究会

<金井幸子>

日本心理臨床学会、日本外来小児科学会、日本箱庭療法学会、日本小児看護学会、日本小児保健学会、日本看護学教育学会

<加城貴美子>

日本母性衛生学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本交流分析学会、日本家族カウンセリング協会、日本公衆衛生学会、日本看護診断学会、日本助産学会、聖路加看護学会、日本健康教育学会、日本交流分析協会、家族社会学会、日本思春期学会

<和田佳子>

日本母性衛生学会、日本助産学会、日本看護科学学会、日本心理臨床学会、日本女性心身医学会、日本心理学会、日本思春期学会

<笹野京子>

日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護研究学会、日本助産学会、日本母性衛生学会、日本看護科学学会、日本思春期学会

<阿部正子>

日本母性衛生学会、日本遺伝看護研究会、日本看護研究学会、日本不妊学会、日本看護科学学会、日本思春期学会、日本助産学会

<高塚麻由>

日本看護科学学会、日本母性衛生学会、日本助産学会、日本思春期学会

<西方真弓>

日本看護科学学会、日本母性衛生学会、日本助産学会、日本思春期学会

② 委員会活動

加固正子:上越休日急患診療所運営委員、2002.11.～現在にいたる

加固正子:新潟県看護協会 認定看護管理者セカンドレベル教育運営委員会委員、2002.10月～2004.3月

③ 社会教育活動

加固正子:看護師からみた児童虐待、新潟県立看護大学公開講座「女性と看護」、上越市高陽荘、2002.10.26.

加固正子:乳幼児期の心の成長と親の関わりについて、両親および母子保健推進員対象、六日町生涯学習課、2003.3.16.

加固正子:「上越管内における小児救急の現状—調査結果について」上越管内母子保健担当者会議、

2004.3.4.

加固正子:新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会、講師、2002、10月～11月

加固正子:新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会、講師、2003、9月～10月

井上みゆき:新潟県看護協会「平成14年度看護研究学会」 座長 2002、11月

井上みゆき:新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会、講師、2002、9～11月井上みゆき:「子どもの人権について」長岡市介護保健課 保健師講習会2003、1月

井上みゆき:「子どもの看護」長岡市児童福祉課 子育て講座 母親対象 2003、2月

加城貴美子:新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会、講師、2003、10月

加城貴美子:厚生連上越総合病院 看護職員研修、2002、11月「知って得する貴女の心を伝え相手の懐に入り込むわざ」

加城貴美子:長岡市介護保険課 長岡精神自助グループ、2003、2月「人間関係の基本的なコミュニケーションについて」

加城貴美子:新潟県川西町保健課、母子研究会、2003、2月「人間関係コミュニケーション」

加城貴美子:新潟県三条市中央公民館 満60歳以上の高齢者、2003、3月「人間の姿勢～自分の姿勢を知って楽しく生きよう～」

加城貴美子:岩室温泉・ゆもとや 第20回厚生連女性の集い、2003、5月「生き生き生活を手に入れるためには」

加城貴美子:厚生連上越総合病院 女性セミナー、2003、5月「尿失禁について」

加城貴美子:厚生連上越総合病院 女性セミナー、2003、6月「更年期～きりひらこう、貴女の未来を～」

加城貴美子:新潟県立看護大学 新潟県公立高校家庭科教諭会、2003、7月「母体の健康管理ーライフサイクルと性ー」

加城貴美子:厚生連上越総合病院 女性セミナー、2003、8月「中高年の性～更年期を明るく生きよう!」

加城貴美子:新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会、2004、10月

加城貴美子:NPO法人 日本交流分析協会、2003、3月 第25回年次大会、D:介護・福祉「看護学生がよい人間関係を築くコツ」

④ 公開講座

・「いのちかがやく思春期～自分のからだを好きになろう～」,北村邦夫講師、2003、12月,上越市教育委員会・上越助産師会共催

6 成人看護学講座

(1) 教員構成

	慢性期	急性期
教授	加藤 光寶	深澤 佳代子
助教授		小林 優子
講師	直成 洋子          酒井 禎子	
助手	山元 智穂 (平成15年3月31日付け退職) 飯田 智恵 (平成15年4月1日付け採用) 樺澤 三奈子 (平成15年4月1日付け採用) 内藤 知佐子 (平成16年4月1日付け採用)	山田 正実 上原 美樹 (平成15年3月31日付け退職) 今泉 香里 (平成15年4月1日付け採用)

## (2) 講座運営の経過

教育理念と卒業時の特性から、成人看護学において、学生が成人看護学をどのように順序立て、どのように目標を達成できるかの観点から、内容・順序を検討した。成人看護学に関する概念の説明内容と卒業時の特性から成人看護学実践に必要な知識・技術を抽出し、類似する概念・理論を分類し、再構成した。

成人看護学は、基礎看護学に積み重なる領域において追加・強化する教科目である。「健康障害がある成人期の特徴を理解する」ことを目的として、「看護を行うための基礎的な能力を育てる」ために重複する内容を整理し、精選して効果的に学べる設計図をつくることに重点をおいた。

○成人看護学Ⅰは、概論と援助学で、成人看護学Ⅱは治療看護学とし、それぞれの単元を精選した。第3、4セメスターでの授業の展開は、成人看護概論では、対象の心理・社会的・身体的側面から日常行動様式を把握し、対象を理解できるように、そして、成人保健・健康教育の動向を概観する。成人援助学は、援助のカテゴリーから、救急・集中治療、周手術期、慢性期、リハビリテーション期、ターミナルケアと経過の状況を単元とした。

○成人看護Ⅱは、治療看護という枠組みから、臓器・系統別に疾患を俯瞰し、典型的な事例から、成人期にある患者の看護が学べるような単元を配置した。

(平成14年度～15年度)

新潟県下の主要病院看護部と共同し、成人看護学講座急性期領域では、研究活動の体制作りを行った。

講座の教育および研究活動を円滑に行うため、教材や機器・器材、図書の整備に関する検討を行い、整備した。また、平成16年開講予定の成人看護学演習における学生の自己学習を支援するためのマルチメディア教材開発に関する研究を行った。

## (3) 授業について

### ① 授業内容

「成人看護学Ⅰ」2単位30時間、2学年前期、「成人看護学Ⅱ」2単位60時間、2学年後期、成人看護学Ⅰでは、成人期にある急性的な健康障害をきたした人の看護について知識・理論・技術を学び、生命や生活の質を重視した看護援助について成人看護学講座でオムニバスにより教授した。また、成人看護学Ⅱでは、臨床病理学ⅠおよびⅡの教授内容と整合性を持たせつつ、成人看護学講座慢性期とオムニバスにより、成人期に生じやすい疾病や障害をふまえ、成人期の患者の看護について学生が具体的に患者の問題を取り上げアセスメントおよび援助できるための授業を展開した。

### ② 実習について

「成人看護学実習」5単位 225時間 3学年後期(第6セメスター)では、実習要項の作成、そのプロセスにおいて臨床現場と実習方法について検討を重ねてきた。

## (4) 教学管理

加藤光實：教務委員会実習部会部会長(平成14、15年度)

企画委員会(平成14年度～)

自己点検・評価委員会副委員長(平成15年度～)

倫理委員会副委員長(平成15年度～)

セクシュアルハラスメント対策委員会副委員長(平成15年度～)

PBL実施委員会(平成15年度～)

酒井禎子：実習部会 委員（平成14年度）

深澤佳代子：教務委員会委員、図書委員会委員、自己点検評価委員、看護研究交流センター委員、看護研究交流センター生涯学習支援事業担当委員、実習部長（平成16年度より）、セクシャルハラスメント委員会委員、倫理委員会委員、PBL実施委員会委員、看護研究交流センター生涯学習支援事業担当委員

小林優子：教務委員会委員、学生委員会副委員長

#### （5）講座管理

##### ① 教育環境（実習室）と教材

本講座では、平成16年度から開始される成人看護学演習Ⅰ・Ⅱの展開に向けて、成人・老年看護学実習室の整備を検討してきた。看護技術教育の充実に向けて、少人数の質の高い技術教育を行えるよう、1学年を2つに分けて成人看護学演習を展開するというプログラムを構築し、それに伴って実習室のスペースや備品の見直し等を行った。

まず、50人近くの学生が演習するスペースと備品を十分確保するために、従来演習において使用頻度の少なかった自動洗浄装置の撤去を行うとともに、小グループでの演習展開に対応した演習用ベッド数を確保した。また、成人看護学演習の展開においては、マルチメディア教材を効果的に用いた教授法を進めるにあたり、PC用スクリーンやアンプ、スピーカーといった視聴覚機器の設置・充実を図っているところである。

##### ② 教材

演習・実習に関連した学生の自己学習の環境づくりを視野において、医療現場に即したより実践的な技術練習が行えるよう、成人・老年看護学実習室内の医療・看護用備品の質と量の充実に努めてきた。現在までに購入した主な教材としては、臀部筋肉注射用モデル、万能型実習モデル、点滴準備台等がある。採血静注シミュレーターは、次年度購入の予定である。

#### （6）教育研究活動

##### ① 学長特別研究費及び看護研究交流センター費に基づく研究活動

加藤光寶、直成洋子、酒井禎子、西脇洋子、山元智穂、本宮みどり、牧優子、小野塚栄子、岡田恵子、渡辺初美、熊木留美：継続看護における連携システムの構築—成人看護における検討（平成14年度看護研究交流センター研究部会活動における研究）

加藤光寶、直成洋子、酒井禎子、飯田智恵、樺沢三奈子、本宮みどり、牧優子、小野塚栄子、岡田恵子、渡辺初美、熊木留美：継続看護における連携システムの構築—退院状況の実態に関する研究（平成15年度看護研究交流センター研究部会活動における研究）

和田佳子、笹野京子、加城貴美子、加藤光寶、山元智穂、上原美樹：看護学生の自己成長に関する研究（平成14年度学長特別研究費による研究）

酒井禎子：がん看護における代替・補完療法の導入の現状とその効果に関する文献レビュー（平成14年度学長特別研究費による研究）

和田佳子、加藤光寶、笹野京子、加城貴美子、直成洋子、飯田智恵、樺沢三奈子：看護学生の自己成長に関する研究（平成15年度学長特別研究費による研究）

岡田恵子、下久保明子、阿部正子、金井幸子、柏木夕香、酒井禎子：看護を基盤に置いた「いのち」に関する諸問題の学際的な一考察（平成15年度学長特別研究費による研究）

深澤佳代子、小林優子、山田正実、上原美樹：新潟県下の救急外来に勤務する看護者の臨床実践能力に関する研究（平成14～15年看護研究交流センター研究部会活動における研究）

加藤光寶、深澤佳代子、小林優子、直成洋子、酒井禎子、山田正実、西脇洋子、山元智穂、上原美樹：成人看護学演習におけるマルチメディア教材の開発(平成14年度学長特別研究費による研究)

小林優子：術後急性期混乱状態の看護介入に関する研究(平成14年度学長特別研究費による研究)

中野正春、加藤光寶、深澤佳代子：新潟県立看護大学1年生の骨密度に関する研究(平成14年度学長特別研究費による研究)

深澤佳代子、小林優子、山田正実、今泉香里：新潟県下の救急外来に勤務する看護者の臨床実践能力に関する研究(平成14～15年看護研究交流センター研究部会活動における研究)

加藤光寶、深澤佳代子、小林優子、直成洋子、酒井禎子、山田正実、飯田智恵、樺沢三奈子、今泉香里：成人看護学演習におけるマルチメディア教材の開発(平成15年度学長特別研究費による研究)

吉山直樹、加藤光寶、深澤佳代子、加固正子、橋本明浩、大友康博、服部伸、杉田玄：ITを活用した継続医療・看護ケア(ヘルスケア)の有効・効率的なプランニングの研究(平成15年度看護研究交流センター研究部会活動における研究)

#### (7) 研究業績

##### 〔著書〕

加藤光寶編集：看護観察のキーポイントシリーズ、整形外科、第3版、中央規出版、11-53、101-110、164-170、210-214、220-225、287-309、2003.

加藤光寶、五十嵐三都男、織田弘美他著：系統看護学講座 専門14(10)運動器疾患患者の看護、医学書院、2-22、164-212、257-264、272-277、293-296、298-321、2003.

加藤光寶監訳：刷新して欲しい 患者移動の技術—患者・看護師・医療者を身体損傷や医療事故から守るために、日本看護協会出版会、2003.

加藤光寶、五十嵐三都男、織田弘美他著：系統看護学講座 専門14(10)運動器疾患患者の看護、医学書院、2-22、164-213、237-267、272-278、293-296、298-322、2003.

##### 〔論文〕

平方静子、熊木留美、川上一美、加藤光寶：入院生活におけるストレスの実態調査、日本職業・災害医学会学会誌、2002.

直成洋子、泉野 潔、澤田愛子、高間静子：循環器系疾患患者の自己管理行動および自己効力感に影響する要因、富山医科薬科大学看護学会誌、4(2)：21-30、2002.

菱沼典子、田代順子、森明子、押川陽子、酒井禎子、成瀬和子：日本の都市型保健所における看護活動モデル—プライマリヘルスケアの視点から—、聖路加看護学会誌、6(1)：44-50、2002.

小林優子、山田正実、加藤光寶：看護基礎教育における救急看護・クリティカルケア看護の教育方法、看護教育、44(2)：96-103、2003.

中川靖子、宮島直美、小林朱美、石川恵子、安田清美、沓田久子、加藤光寶：燕労災病院における看護師の喫煙の実態調査、日本職業・災害医学会学会誌、51巻 臨時増刊号、2003.

横山久子、藤田美佐子、河合千恵子、高野菜穂子、加藤光寶：手術室における患者の羞恥の場面に関する研究、第34回日本看護学会論文集—成人看護Ⅰ—、2004.

深澤佳代子：看護学生教育における感染対策、インフェクションコントロール2002年；11(3)：26～30

深澤佳代子、西村チエ子、西原三枝子：手術部の安全性をふまえた効率化の限界、日本手術医学会誌2002年；23(4)：46～48

戸田和子、小林優子、内藤理恵、笠井昭男、島田久基：除水能低下で血液透析への移行を自己決定した事例—ロイ適応看護論の4つの様式を用いて—、透析ケア2002年；8(6)：605～612

安藤美華代、朝倉隆司、小林優子: 高校生の「いじめ」の認識に関する研究—高校生・養護教諭・母親間の比較検討—学校保健研究2;44(6):508~520

小林優子、山田正実、加藤光寶: 看護基礎教育における救急看護、クリティカルケア看護の教育方法救命救急センターにおける実習の学習内容と方法の検討、看護教育2003年;44(2):96-103

〔報告書〕

加藤光寶、深澤佳代子、小林優子、直成洋子、酒井禎子、山田正実、西脇洋子、山元智穂、上原美樹: 成人看護学演習におけるマルチメディア教材の開発(1)—看護系大学における学内演習の実態—、平成14年度学長特別研究費研究報告書、15-18、2003年。

中野正春、加藤光寶、深澤加代子: 新潟県立看護大学1年生の骨密度に関する研究、平成14年度学長特別研究費研究報告書、5-6、2003年。

和田佳子、笹野京子、加城貴美子、加藤光寶、山元智穂、上原美樹: 看護学生の自己成長に関する研究—調査1: 尺度原案作成のための調査—、平成14年度学長特別研究費研究報告書、21-24、2003年。

加藤光寶、直成洋子、酒井禎子、西脇洋子、山元智穂: 継続看護における連携システムの構築: 成人看護における検討—『在宅療養』『在宅ケア』に関する文献レビューから見た在宅療養支援のための課題—「県内病院—病棟を退院した患者の実態調査」、平成14年度看護研究交流センター事業 活動・研究報告書、25-32、2003年。

尾崎フサ子、小林優子、古川恵子、中村あや子、伊豆シゲ子、中野裕子: 平成14年度看護職員メンタルヘルス対策推進事業プロジェクト委員会報告 看護職員メンタルヘルス対策推進事業報告書、平成15年3月

〔その他の論文〕

直成洋子、酒井禎子: 看護学生 実力アップ.資格ファイル成人看護①、メヂカルフレンド社、50(4):41-53、2002.

酒井禎子、直成洋子: 看護学生 実力アップ.資格ファイル成人看護②、メヂカルフレンド社、50(5):40-52、2002.

直成洋子、酒井禎子: 看護学生 実力アップ.資格ファイル成人看護③、メヂカルフレンド社、50(6):40-52、2002.

酒井禎子、直成洋子: 看護学生 実力アップ.資格ファイル成人看護④、メヂカルフレンド社、50(7):40-52、2002.

直成洋子、山元智穂、加藤光寶: ナーシングカレッジ 実習アシストカード 機能障害と看護 第8回防衛機能障害、医学芸術社、2002.

酒井禎子: 危機理論(モデル)の理解と実践への適用②、がん看護、8(4):336-339、2003.

深澤佳代子: 病院感染対策に一言—アメリカの医療現場で感じたこと、インフェクションコントロール2002年;11(6):1

深澤佳代子: 海外レポート・アメリカの看護教育事情、るみえーる冬季号2004年3月5

〔学会発表〕

平方静子、熊木留美、川上一美、加藤光寶: 入院生活におけるストレスの実態調査、第3回日本職業災害医学会看護学会、岩手、2002年10月。

射場典子、橋爪可織、小松浩子、川越博美、酒井禎子: ターミナルケアにおけるチームアプローチの理解を促す新たな学習展開の試み—シンポジウム形式を導入した4年間を振り返って—、第26回日本死の臨床研究会、群馬、2002年10月。

高野弘美、加藤光寶: 脳血管障害による身体障害を抱えた老年期にある患者の貼り絵導入時期の検討、平成14年度新潟県看護協会看護学会、新潟、2002年11月。

横山久子、藤田美佐子、河合千恵子、高野菜穂子、加藤光寶: 手術室における羞恥の場面に関する研究、平成14年度新潟看護協会看護学会、新潟、2002年11月。

島川妙美子、杉山優美子、白倉美咲、高桑陽子、加藤光寶: 意識障害患者が経口摂取するまでの嚥下訓練援助の検討(JCS2患者)、平成14年度新潟看護協会看護学会、新潟、2002年11月。

尾崎育恵、加藤光寶：維持透析患者の自己管理態度と自己効力感の現状、第5回日本腎不全看護学会、名古屋、2002年12月。

飯田智恵、山本昇：低温熱傷発症条件に関する実験的検討、第29回日本看護研究学会学術集会、大阪、2003年7月。

藤田美香子、五十嵐光子、武石文子、小林亜希子、村山英恵、加藤光寶：燕労災病院における看護師の喫煙の実態調査、第4回日本職業災害医学会看護学会、新潟、2003年10月。

本宮みどり、牧優子、岡田恵子、渡邊初美、熊木留美、加藤光寶：入院期間延長に関する実態調査、平成15年度新潟看護協会看護研究学会、新潟、2003年11月。

藤田美香子、五十嵐光子、武石文子、小林亜希子、村山英恵、加藤光寶：術後3日間の術後疼痛の鎮痛に対応する患者満足度の検討、平成15年度新潟看護協会研究学会、新潟、2003年11月。

横山久子、藤田美佐子、河合千恵子、高野菜穂子、加藤光寶：手術患者の羞恥に関する研究、第34回日本看護協会看護学会(成人)、2003年11月。

酒井禎子(一般講演座長)：「がん看護教育」に関するテーマ5題、第18回日本がん看護学会学術集会東京、2004年2月

深澤佳代子：看護基礎教育から見た手術室看護の専門性、日本手術医学会第25回総会、2003年11月

村田顕子、古沢弘美、小林優子：30～40代の糖尿病患者のセルフケア行動を妨げる要因、第8回日本糖尿病教育・看護学会学術集会、2003、新潟市

小林優子：看護学生の臨床実習受け入れによる看護師への影響と変化—救命救急センターにおけるマンツーマンでの見学実習を通して—、平成15年度新潟県看護研究学会、2003、新潟市

山田正実：障害者をかかえた家族の家族機能回復過程 脳卒中患者の入院から退院まで、第9回日本家族看護学会、2003

深澤佳代子(教育講演)：手術室看護の専門性・独自性、第24回長野県手術研究会教育講演、諏訪市、2003

深澤佳代子：フィジカルアセスメント、新潟県看護協会佐渡支部講習会、佐渡、2003

深澤佳代子：継続教育、日本手術看護学会主任研修講師、東京、2003

深澤佳代子(座長)：第25回日本手術医学会総会、看護業務座長、福岡市

深澤佳代子(教育講演座長)：鋼製小物の洗浄・滅菌について、平成15年日本医科器械学会教育セミナー、教育講演座長、新潟市、2003

## (8) 社会活動

### ① 学会、研究会

<加藤光寶> 日本看護歴史学会、日本看護研究学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本職業・災害医学学術学会、日本看護科学学会

<直成洋子> 日本がん看護学会、日本看護研究学会、日本看護学教員学会、日本死の臨床研究会、日本看護科学学会

<酒井禎子> 日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本死の臨床研究会

<飯田智恵> 日本看護研究学会

<樺澤三奈子> 日本看護協会

<深澤佳代子> 日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護管理学会、日本病院管理学会、日本手術医学会、日本手術看護学会、日本救急看護学会、日本褥創学会、日本看護協会、日本看護連盟

<小林優子> 日本保健医療行動科学学会、日本学校保健学会、日本思春期学会、日本体育学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本糖尿病教育看護学会、日本看護協会

<山田正実> 日本家族看護学会、日本看護協会

<今泉香里> 日本看護協会

## ② 委員会活動

深澤佳代子:日本手術医学会評議員、日本手術医学会誌編集(査読)委員、平成16年度関東甲信越看護学会査読委員(平成15年3月)

直成洋子:第24回関東甲信越地区看護研究学会 準備委員(2003年5月～現在に至る)

第8回日本糖尿病教育・看護学会 査読委員(2003年7月)

小林優子:新潟県看護協会常任委員<学会委員>(平成15年3月まで)

## ③ その他の社会活動

深澤佳代子:厚生労働省看護師国家試験出題基準ワーキングメンバー(平成14～15年)

小林優子:新潟県看護職メンタルヘルス対策推進事業看護職員のストレスに関する実態調査プロジェクト委員(平成15年3月まで)

## (9) 社会教育活動

<加藤光寶>

鳥取県看護協会研修講師「関わり技法」、2002年6月9日。

平成14年度小規模施設看護職員実務研修(糸魚川圏域)講師「看護職員の倫理」、2002年6月13日。

平成14年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会講師「実習指導の方法」、2002年9月17日。

長岡赤十字病院看護研修「中堅ナース研修」講師、2002年11月20日。

平成15年度小規模施設看護職員実務研修「積極的傾聴法」、2003年5月。

上越市役所研修講師「積極的傾聴法」、2003年6月19日。

新潟県看護協会副看護師長研修講師「副看護師長としてのリーダーシップ」、2003年8月28日。

平成15年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会講師「看護論」「実習指導原理」「対人関係技法」「実習指導の実践2(施設実習)成人看護学実習」、2003年8月～10月。

長岡赤十字病院看護部研修講師「中堅看護師のリーダーシップ、問題解決能力」、2003年10月。

新潟県福祉保健部臨床実習指導者フォローアップ研修 講師、2003年10月。

新潟県看護協会研修講師「副看護師長としてのリーダーシップ」、2004年1月22日。

<直成洋子>

平成14年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会講師「成人看護学実習(慢性期)(演習)」2002年9月～11月。

平成15年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会講師「実習指導の実践2(施設実習)成人看護学実習」、2003年9月8日～16日。

<酒井禎子>

平成14年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会講師「実習指導の方法」、2002年10月10日。

新潟県厚生連中央看護専門学校・長岡中央総合病院研修会「看護学実習のねらいと実習指導の実際」、2003年2月19日。

平成15年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会講師「実習指導の実践2(施設実習)成人看護学実習」、2003年9月8日～16日。

新潟県立がんセンター新潟病院看護部研修「看護理論を実践に生かす」、2004年1月28日。

豊栄市ヘルスアップ教室「糖尿病予防教室」講師、2004年3月10日。

<飯田智恵>

平成15年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会講師「実習指導の実践2（施設実習）成人看護学実習」、2003年9月8日～16日。

<樺澤三奈子>

平成15年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会講師「実習指導の実践2（施設実習）成人看護学実習」、2003年9月8日～16日。

<深澤佳代子>

平成14年～15年度新潟県看護職員臨地指導者養成講習会企画協力「フィジカルアセスメント」、「成人看護学Ⅰ、Ⅱ」講師 平成14年～15年度看護研究交センター生涯学習支援事業委員として企画、運営  
平成14年～15年度看護研究交流センター看護研修支援事業委員として企画および運営、「看護研究の基礎」運営

<小林優子>

平成14年度新潟県看護職員臨地指導者養成講習会「成人看護学Ⅱ」講師

<山田正実、今泉香里>

平成15年度新潟県看護職員臨地指導者養成講習会「成人看護学」指導

(10) その他 現任者研究指導

深澤佳代子：新潟県立中央病院看護研究指導

小林優子：清里村健康づくり講演会「楽しく歩いて健康生活」講師

小林優子：新潟県立がんセンター看護部講演「看護理論と看護の実践—マーガレット・ニューマン看護論を中心に」

小林優子：新潟県立病院看護部研修「看護研究のイロハ」

小林優子：厚生連刈羽郡総合病院看護部研修会「看護診断を学ぼう」講師

小林優子：上越保健所小規模施設看護研修会「看護職のストレス特性とその対応」

小林優子：新潟県立十日町病院看護部研修「看護師のストレスとストレスマネジメント」

深澤佳代子、小林優子：新潟労災病院看護研究指導

小林優子：新潟県看護協会看護職のメンタルヘルス研修会「自己のストレスを知る」厚生連中条病院看護部「看護診断を学ぼう」

## 7 広域看護学講座

### 1) 精神看護学

#### (1) 教員構成

富川 孝子 教授

後田 穰 講師 (平成16年4月1日付け採用)

手島 美絵 助手 (平成16年4月1日付け採用)

長野 勝 助教授 (平成15年9月30日付け退職)

俊成 晴奈 助手 (平成16年3月31日付け退職)

#### (2) 精神看護学講座運営の経過

精神看護学は、精神活動の異常に着目する医学モデルの考え方から脱却し、健康な精神活動の維持・増進を図る看護モデルの考え方に立つことが求められている。そのため、看護の立場をより強く打ち出した教科書を採用し、教員の責任を明確にした臨床実習のあり方について実習病院

と話し合いを重ね、講義は実習と結びつく講義内容になるように努力した。

### (3) 授業について

#### 開講教科目

- ①「精神看護学Ⅰ」、1単位、15時間、2学年第3 Semester
- ②「精神看護学Ⅱ」、2単位、60時間、2学年第4 Semester
- ③「精神看護学演習」、1単位、30時間、3学年第5 Semester

平成16年3月末までに実施したのは①と②である。②の精神疾患に関する講義はゲストスピーカーの精神科医師に7回の講義を依頼した。また、②では、看護職や福祉職の実践的な講義を通して知識と実践とのつながりの理解を図るため、病院における精神科看護の実際・精神科デイケアの実際・作業療法の実際について、ゲストスピーカーに1回ずつ講義を依頼した。

- ④「精神看護学実習」、3単位、135時間、3学年第6 Semester

平成16年9月末からの実施に向けて、実習要項・実習指導案の作成、教員と臨床指導者の役割に関する実習病院との話し合い等を行った。

### (4) 教学管理

#### ① 学内委員の役割

富川は、図書館長、図書委員長として図書館および図書委員会の活動を統括した。また、大学の管理運営や将来構想を審議する企画会議のメンバーとして会議に参加した。さらに、精神看護学領域の代表として教務委員会実習部会の会議に参加した。

#### ② 講座管理

教授1名、助教授1名、助手1名の体制で出発したが、平成15年9月に助教授、平成16年3月に助手が退職した。平成16年4月から講師1名、助手1名が新たに着任したが、人的体制は極めて弱体である。精神看護学領域の人材不足のため、助手3名の定員を確保できる見通しが立たない。

精神看護学領域の実習室がないため、地域看護学実習室を地域看護学領域と精神看護学領域が共同で使用するよう交渉中である。教材購入予算があっても、実習室がなく、置き場所がないために必要な教材も購入できないのが現状である。

#### ③ 短大教育及び運営の現状

平成14年度は、短大の精神臨床看護学の講義60時間、精神看護学実習90時間、在宅看護論実習90時間を担当した。平成15年度は、短大の精神看護学実習90時間を担当した。

### (5) 現状と課題

人的体制が弱いことが最大の問題である。助手がいなかったために教授が実習指導に飛び回らねばならず、講義の準備も十分にできないのが現状である。人的体制の強化が緊急の課題である。

### (6) 研究活動

看護研究交流センターの研究活動として、平成14・15年度の2年間にわたり、「新潟県における精神障害者ホームヘルプサービスに関する研究」に取り組んだ。また、学長特別研究費による研究活動として、平成14・15年度の2年間にわたり、「精神看護学実習のあり方に関する研究」に取り組んだ。

### (7) 研究業績

#### 〔著書〕

富川孝子. 環境と心の働き. 新体系看護学32 精神看護概論・精神保健. 東京: メヂカルフレンド社, 2002: 104-126

〔論文〕

Yoshiko Nojima, Takako Tomikawa, Satsuki Makabe, Mariah Snyder. Defining characteristics of expertise in Japanese clinical nursing using the Delphi technique. Nursing and Health Sciences 2003;5,3-11

松本 泉、佐藤幸子、後田 稔、ICUにおける患者の治療参加を目指して—ICU退室後の患者意識調査を通して—。看護実践の科学 2004;29(1):68-71

〔報告書〕

富川孝子、俊成晴奈、丸田明美、清水美和子、小林朗子、山岸裕子。新潟県における精神障害者ホームヘルプサービスに関する研究。平成14年度新潟県立看護大学看護研究交流センター「活動・研究報告書」2003:37-44

富川孝子、俊成晴奈。大学教育における精神看護学実習のあり方に関する研究。平成14年度新潟県立看護大学学長特別研究費「研究報告書」2003:35-36

〔学会発表〕

市地敏夫、富川孝子。精神看護学実習における看護診断の指導内容の検討。青森：日本看護診断学会、2002:7月  
美王真紀、富川孝子。脳血管疾患患者の家族の心理的变化。東京：日本看護科学学会、2002:12月

(8) 現状と課題

「精神障害者ホームヘルプサービスに関する研究」および「実習カンファレンスに関する研究」は、実習病院である国立療養所犀潟病院（現、国立病院機構さいがた病院）の看護職と共同で進めており、学会発表および論文投稿を目指している。人的体制が弱体であるため、教育活動を支障なく行うだけで精一杯であり、研究の時間がないことが大きな悩みである。

(9) 社会活動

① 学会・研究会への参加

<富川孝子> 日本看護科学学会、日本看護診断学会、日本精神保健看護学会、日本保健医療行動科学学会、日本病院・地域精神医学会、日本精神神経学会、日本看護協会

<後田 稔> 日本看護協会、日本看護研究会、日本集団精神療学会、日本精神保健看護学学会

<手島美絵> 日本病院・地域精神医学会、日本精神科看護技術協会、日本看護協会

② 社会教育活動

富川孝子。「やさしさ」と「共依存」。平成14年度看護研究交流センター一般公開講座「女性と看護」、2002:9月

富川孝子。看護研究発表の講評。平成14年度日本精神科看護技術協会新潟県支部精神科看護研修会 2002:9月

富川孝子。精神看護学実習の展開と指導の実際。新潟県福祉保健部福祉保健課主催精神看護学実習看護教員研修会、2002:12月

富川孝子。看護研究発表の講評。平成15年度日本精神科看護技術協会新潟県支部精神科看護研修会 2003:9月

富川孝子。実習指導の実践1<精神看護学>。新潟県福祉保健部福祉保健課主催平成15年度看護職員臨地実習指導者養成講習会、2003:10月

富川孝子。精神科看護理論。日本精神科看護技術協会新潟県支部精神科認定研修、2003:11月

富川孝子。統合失調症をもつ人とその家族への援助。上越市第六地区民生・児童委員協議会研修会、2004:1月

富川孝子。看護理論。日本精神科看護技術協会新潟県支部精神科認定研修、2004:2月

富川孝子。研究を論文にまとめる方法を学ぶ(3回シリーズ)。国立療養所犀潟病院看護研究会2003:6月,7月,11月

富川孝子。看護理論の基礎概念と発達。平成15年度国立療養所犀潟病院専門コース(ステップ1)研修、2003:7月

富川孝子。看護理論と看護の実践。平成15年度国立療養所犀潟病院専門コース(ステップ1)研修、2003:7月

後田 稔。上越市市民研究員、2004:8月

## 2) 老年看護学

### (1) 教員構成

田中キミ子 教授

北川 公子 助教授

唐澤千登勢 助手(平成15年4月1日付け採用) 菅原峰子 助手(平成16年4月1日付け採用)

津田さとみ 助手(平成16年4月1日付け採用) 柏木夕香 助手(平成15年3月31日付け退職)

### (2) 講座運営の経過

高齢化率の高い本県および大学設置地域において、老年看護に対する期待は決して小さくない。しかしその一方で、学生の高齢者との交流経験は年々乏しくなり、加齢変化や高齢者の生活をイメージしにくい状況にある。また、老年看護学が他の看護学領域に比して後発であったことから、万全の実習環境を用意することが難しいという実情もある。そこで本では、体験・参加型教育の充実と、実習施設との共同研究を通して看護実践の前進に寄与することを目標に、平成14～15年度の講座運営を展開した。

また、平成15年度には地域の在宅高齢者の健康増進の一助となることを期して、「エルダリィ・スクール」と題した一般公開講座の企画・実施に参画した。

さらに、平成15年から第5回日本痴呆ケア学会大会(大会長:中島紀恵子学長、平成16年9月開催)の事務局を担った。

### (3) 授業について

#### ① 開講教科目

「老年看護学Ⅰ」 (1単位、15時間、2学年第3セメスター)

「老年看護学Ⅱ」 (2単位、60時間、2学年第4セメスター)

「老年看護学演習」 (1単位、30時間、3年学第5セメスター)

#### ② 実習科目

「老年看護学実習」 (3単位、135時間、3学年第5セメスター)

老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習を通して培われた知識と技術を統合し、老年看護の一連のプロセスを、体験を通して深化することができるよう構成した。平成15年度には、翌年からの実施準備として、実習要項を完成させた。

また、開設準備の段階で実習施設として設定した老人保健施設と老人福祉施設に加え、療養病棟を追加した。

### (4) 教学管理

#### ① 学内委員の役割

田中は教務委員会委員長としてカリキュラム、シラバス、履修、単位認定、成績評価に関する事項の作成・実施の役割を担った。また研究交流委員会委員として生涯学習教育(公開講座)の企画運営に努めた。北川は実習部会副部長、図書委員会委員、情報ネットワーク委員会委員としての役割を担い、平成15年度は、広報委員会委員長として大学広報計画立案、広報誌の発行、ホームページの立ち上げを行うとともに、学生委員会委員として任務を遂行した。

#### ② 講座会議

毎月第3水曜日を講座会議日とし、教授会構成メンバーではない教員に対する教授会討議事項の伝達のほか、講義、実習、研究に関する意見交換、ならびに準備作業を行った。

### ③ 教材の整備

短期大学から引きついで教育教材を見直し、一部補強を行った。補強された教材とは、主に学生の体験の助長に資するものであり、疑似体験セットや補聴器、各種の教育ビデオなどである。

### ④ 教育環境の整備

老年看護学演習ではいくつかの技術の体験学習を予定しており、教科の有効・効率化の視点からいえば、占有の実習室を望むところである。しかし、既存の資源をより効果効率的に使うことが現実的な選択肢であるのであれば、実習室の稼働率と講座構成にみあう実習室編成の見直しについて検討する必要があると考える。

### (5) 研究活動

#### ① 学長特別研究費に基づく研究活動の現状

田中キミ子、北川公子、柏木夕香、唐澤千登勢、宮島ひろ子ほか。療養病棟患者の退院後の在宅ケアを効果的に継続させるための退院指導に関する研究、新潟県立看護大学看護研究交流センター事業 2002～2003年度

#### ② 学外公募研究補助金に基づく研究活動の現状

北川公子:特別養護老人ホームにおける痴呆高齢者の終末期の様相と看護ケアの課題、基盤研究(c)(2)、2002年度採択

### (6) 研究業績

#### 〔著書〕

介護支援専門員テキスト編集委員会(委員長 井形昭弘,執筆者 足立巳幸,井口昭久,北川公子,ほか40名).改訂介護支援専門員基本テキスト 第2巻 介護支援サービスと介護サービス,第11章 痴呆対応型共同生活介護.財団法人長寿社会開発センター 2003:247-261.

#### 〔論文〕

伊勢崎美和、北川公子:わが国における痴呆性高齢者のデイケアに関する研究の動向と課題.看護研究 2002;35(5):3-12.

#### 〔報告書〕

北川公子、田中キミ子、柏木夕香:痴呆高齢者の終末期スクリーニング・リスト作成の試み.平成14年度学長特別研究費研究報告書 2003:33-34.

柏木夕香:内科的治療を受ける肺がん患者の不安の推移～告知と治療過程に焦点をあてて.平成14年度学長特別研究費研究報告書 2003:97-98.

田中キミ子、北川公子、柏木夕香、宮島ひろ子:療養病棟患者の退院後の在宅ケアを効果的に継続させるための退院指導に関する研究.平成14年度学看護研究交流センター事業活動・研究報告書 2003:33-36.

田中キミ子:独居高齢者の健康逸脱に関するセルフケア要因の研究.平成15年度学長特別研究費研究報告書 2003:132-138.

柏木夕香:高齢者のがん告知に関する研究.平成15年度学長特別研究費研究報告書 2003:139-146.

#### 〔その他の論文〕

北川公子、柏木夕香:他の疾患を併せ持つ痴呆性高齢者に対する看護とその注意点.臨床老年看護2003;10(4):73-79.

柏木夕香:中高年肺がん患者の告知後の心情と告知前後の援助.第34回日本看護学会論文集成人看護Ⅱ 2004:255-257.

北川公子、唐澤千登勢.痴呆性高齢者の終末期ケア.臨床老年看護 2004;11(1):39-44.

北川公子.研究活動推進委員会資料 老年看護研究の査読をクリアする戦略 査読活用のすすめ.老年看護学 2003;8(1):96-97.

〔学会発表〕

田中キミ子,戸村成男,一人暮らし高齢者のセルフケアの現状,第25回プライマリ・ケア学会 2002年6月(兵庫県),  
吉山直樹,小林繁郎,宮原祥,田中キミ子,面接技法の研究—外来における「右」と「左」,第25回プライマリ・ケア学会 2002年6月(兵庫県).

Tanaka Kimiko, Tomura Shigeo. Self-Care of the Elderly of Solitary Life in Rural Japan. 7th World Congress Self-Care Deficit Nursing Theory Oct 2002(Atlanta).

伊勢崎美和,北川公子,中島紀恵子,デイケアにおける痴呆性老人の「生活健康スケール」の検証,日本老年看護学会第7回学術集会 2002年11月(神奈川県).

吉山直樹,田中キミ子,医療専門職のライフコース(Pass of Life)の研究,第26回プライマリ・ケア学会 2003年6月(北海道).

田中キミ子,戸村成男,柏木夕香,吉山直樹,高齢者のセルフケア実践の分析—一人暮らし高齢者のセルフケアに関連する要因,第26回プライマリ・ケア学会 2003年6月(北海道).

北川公子,中島紀恵子,吉井靖子,痴呆高齢者の重度期・終末期の進行プロセスに関する事例研究,第45回日本老年社会科学学会大会 2003年6月(愛知県).

柏木夕香,肺がん患者の告知後の心情に関する研究,第34回日本看護学会 成人看護Ⅱ 2003年8月(和歌山県).

唐澤千登勢,中島紀恵子,北川公子,在宅痴呆高齢者の身振り表現の意味分析に関する一考察,日本老年看護学会第8回大会 2003年11月(兵庫県).

唐澤千登勢,北川公子,中島紀恵子,在宅痴呆ケア高齢者のニーズと“関わる”技法に関する考察—事例の身振りの分析より,日本痴呆ケア学会第4回大会 2003年11月(宮城県).

津田さとみ,菅原峰子,中島紀恵子,北川公子,唐澤千登勢:保健医療福祉資源の整備過程における痴呆ケアの発展プロセス,第5回日本痴呆ケア学会大会 2004年9月(新潟県).

菅原峰子:脳卒中患者のせん妄予防のための看護介入—入院時オリエンテーションに焦点をあてた介入—日本老年看護学会第9回学術集会 2004年11月(茨城県).

(7) 社会活動

① 学会・研究会

- <田中キミ子>国際Orem看護理論学会,日本プライマリ・ケア学会,日本老年看護学会
- <北川公子>日本老年看護学会,日本老年社会科学学会,日本痴呆ケア学会,日本看護科学学会,日本看護研究学会,日本公衆衛生学会,日本在宅ケア学会
- <柏木夕香>日本プライマリ・ケア学会
- <唐澤千登勢>日本老年看護学会,日本痴呆ケア学会
- <菅原峰子>日本老年看護学会,日本看護科学学会,日本公衆衛生学会
- <津田さとみ>日本老年看護学会,日本痴呆ケア学会

② 学会活動

- <北川公子>日本老年看護学会評議員(平成13~15年度)
- 日本老年看護学会編集委員(平成13~15年度)
- 日本老年看護学雑誌査読者(平成13~15年度,平成16~18年度)
- 日本公衆衛生学会査読委員(平成12~15年度,平成15~17年度)
- 日本在宅ケア学会評議員(平成14~16年度)
- 日本痴呆ケア学会評議員(平成15~17年)

日本痴呆ケア学会「認定痴呆ケア専門士」認定委員（平成15～17年）

日本痴呆ケア学会生涯学習委員（平成16～18年）

日本痴呆ケア学会試験問題作成委員（平成16～18年）

日本看護科学会誌選任査読者（平成15～17年9月末）

### ③ その他の社会活動

<田中キミ子> 上越市在宅看護研究会委員長、上越市IT戦略会議委員、2001～2002年。

<北川公子> 在宅痴呆性高齢者ケアの試行的研究事業検討委員、財団法人日本訪問看護振興財団、2001～2002年。

初期から終末期に至るまでの地域に密着した望ましい痴呆性高齢者ケアのあり方に関する調査研究委員会委員、2002年度。

### (8) 社会教育活動

#### ① 生涯教育事業への参加

北川公子:「ひとりで老いを生きる」,新潟県立看護大学一般公開講座『女性と看護』,2002年12月(上越市)。

「看護研究の意義と役割」,新潟県立看護大学専門講座『看護研究の基礎知識』,2003年7月(上越市)。

「物忘れを防ぐ戦略」,新潟県立看護大学一般公開講座『サクセスフルエイジングへの挑戦』,2003年11月(上越市)。

田中キミ子:「からだを自己点検するコツとワザ」,新潟県立看護大学一般公開講座『サクセスフルエイジングへの挑戦』,2003年11月(上越市)

#### ② 看護研修事業への参加

田中キミ子:平成15年度看護教育ワークショップ「学士課程における看護実践能力育成の到達目標」(主催:文部省)へ,2003年11月15～17日に参加し,その内容を学内の授業・臨床実習等に発展させている。

北川公子:新潟県立看護大学教員海外研修として2003年12月～2004年2月まで,ポートランド州立大学及び関連病院,施設を中心に研修をおこなった。

田中キミ子:「いきいき老年看護」,上越地域医療センター病院看護部,2002年9月(上越市)。

北川公子:「高齢者の転倒の特徴とアセスメント」,社団法人新潟県看護協会「老人看護研修」,2002年9月(新潟市)。

北川公子:「老年期精神科看護概論」,平成14年度老人性痴呆疾患対策研修(於:国立療養所犀潟病院),2002年10月(大潟町)。

北川公子:査読を行った立場から,日本老年看護学会ワークショップ『老年看護研究の査読をクリアする戦略～査読活用のすすめ』,2002年11月(神奈川県)。

北川公子:「痴呆性高齢者への看護」,社団法人北海道看護協会『痴呆性高齢者ケア研修会』,2003年6月(北海道)。

北川公子:老年期に多い病気の看護～看護のポイント,社団法人新潟県看護協会・新潟県ナースセンター「訪問看護師養成講習会」,2003年8月(新潟市)。

田中キミ子:「実習指導計画」,新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会,2003年9月(上越市)

北川公子:「老年期精神科看護概論」,平成15年度老人性痴呆疾患対策研修(於:国立療養所犀潟病院),2003年10月(大潟町)。

北川公子:「老人看護における根拠に基づいたインフォームドコンセント」,社団法人新潟県看護協会『介護施設等の看護職研修会』,2003年10月(新潟市)。

北川公子:「痴呆性老人のケアと評価について」, 社団法人新潟県看護協会『痴呆性老人の看護研修会』, 2003年9月(上越市), 2003年12月(新潟市).

③ その他の地域貢献活動

北川公子:「社団法人呆け老人をかかえる家族の会新潟県支部」世話人, 平成14年度5月から.

北川公子:国際アルツハイマー病協会第10回国際会議 総務部会委員, 平成15年から.

3) 地域看護学

(1) 教員組織

佐々木美佐子 教授

小林 恵子講師、 飯吉 令枝講師、 平澤 則子講師

齊藤 智子 助手

(2) 講座運営の経過

地域看護学は、人々の健康生活を支える看護を基盤として、疾病や障害を持って地域で療養する人たちの家庭へ出向いて生活の営みの一部として行われるケアを支援する看護援助と、地域に住むすべての人々の健康に関わる状態や事象を、客観的にかつ幅広い健康指標を用いて的確に捉えて、地域全体の健康を支えるための総合的・組織的な講義内容になるように授業科目を配置している。

(3) 授業について

① 開講教科目

地域看護学Ⅰ	2単位	30時間	2学年第3 Semester
地位看護学Ⅱ	2単位	60時間	2学年第4 Semester
地域看護学Ⅲ	2単位	60時間	3学年第5 Semester
地域看護学演習	1単位	30時間	3学年第6 Semester
地域看護学実習	4単位	180時間	4学年第7 Semester

・平成17年度に実施予定の臨地実習に向けて、実習施設確保のための取り組みを行った

② 授業内容

地域看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・演習の授業内容および教育方法の調整とともに、他領域の看護学との重複や間隙を確認し授業内容を精選した。

地域看護学Ⅰは地域看護学への導入とオムニバス方式で展開するⅡ・Ⅲ・演習のつながり及び地域看護学全体の科目構成を理解して学習できるような授業展開とする。

地域看護学Ⅱ・Ⅲの授業時はⅠの学習内容とつなげて展開ができるよう、地域看護学Ⅰの授業内容を領域の教員全員が共有した。

3学年前期の「地域アセスメント」演習は、実習保健所・市町村の既存資料を用いて実施、4学年前期に「地域アセスメント」した保健所・市町村で実習するという講義・演習・実習の一貫教育方法を取り入れた。

地域看護学Ⅲは健康日本21と健康増進、新感染症と輸入感染症、高齢者保健福祉と介護保険など最新の健康課題について、専門分野の非常勤講師を委嘱し充実を図った。また、学校保健、産業保健、訪問看護ステーション等の実践者をストスピーカーとして招き、活動の実際についての講義を組み入れた。

#### (4) 教学管理

##### ① 学内委員

<佐々木美佐子：平成14年～16年度>

教務委員会委員及び入試就職委員会を担当した。また、15年度・16年度はFD委員として、授業満足度調査・PBLチュートリアル教育方法の導入に向けた教員研修を企画し実施した。その他、看護研究交流センター研修部会委員及び学長特別研究課題選定委員として学長特別研究課題査定して予算配当を検討した。

<小林恵子>

教務委員会実習部会：平成14年度・15年度の委員として、実習方法の検討・実習要項の作成・実習ローテーション表の作成をした。

<平澤則子>

教務委員会実習部会：平成16年度の委員として、実習担当者会議準備・学生オリエンテーションの準備・継灯式の支援を担当した。

<飯吉令枝>

セクシュアルハラスメント委員会の平成15年度・16年度の委員として、学生用のパンフレットを作成した。

##### ② 講座管理

地域看護学領域の教員の場合大学開設後3年間は、併設の短期大学看護学科及び地域看護学専攻の教科目も担当するため、授業時間の競合を最小限にする時間割の作成することをけんとうした。

#### (5) 現状と課題

地域看護学Ⅲは他の看護学と関連が深い科目なので、授業内容の重複や不足等がないか把握しながら展開して次年度のシラバス作成にあたる必要がある。また、平成17年度第7セメスターから臨地実習が開始されるが、市町村合併により関係機関との再調整する必要がある。

#### (6) 研究活動

##### ① 大学の特別研究費に基づく研究活動

平成14年度

吉山直樹、佐々木美佐子：豪雪へき地医療福祉機関の機能維持に関する調査

佐々木美佐子、小林恵子、平澤則子、飯吉令枝、斎藤智子、吉山直樹：山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャルサポートニーズに関する研究

杉田収、佐々木美佐子、小林恵子、平澤則子、飯吉令枝、斎藤智子、吉山直樹、関谷伸一、橋本明浩：地域ケアを支える住宅環境に関する研究

佐々木美佐子、小林恵子、平澤則子、飯吉令枝、斎藤智子：農村地域の高齢者の生活構造とソーシャルサポートニーズに関する研究

小林恵子：地域母子保健事業における子ども虐待予防・早期発見の保健師の取り組みと課題

平澤則子：コミュニティミーティングで得た質的データの妥当性に関する研究

斎藤智子：在宅要介護者の住宅改善ニーズに関する研究

平成15年度

吉山直樹 佐々木美佐子：医療専門職のライフコース研究－医師の場合について－

佐々木美佐子、小林恵子、平澤則子、飯吉令枝、斎藤智子：山間豪雪地における高齢者の生活構造と

ソーシャルサポートニーズに関する研究

杉田収 佐々木美佐子、小林恵子、平澤則子、飯吉令枝、斎藤智子、吉山直樹、関屋伸一、橋本明浩:地域ケアを支える住宅環境に関する研究—室内にホルムアルデヒドの簡易測定法—佐々木美佐子、小林恵子、平澤則子、飯吉令枝、斎藤智子:大学での保健師教育における地域看護診断の教育方法の構築

小林恵子:子どもの虐待介入における保健師の支援技術

平澤則子:難病の夫を介護する妻のQOL推移からみた看護援助のあり方

斎藤智子:介護支援専門員が認識する対応困難事例の特徴と支援ニーズ

中島紀恵子、野地有子、朝倉京子、飯吉令枝、大友康博、籠玲子、唐沢千登勢、北川公子、小林恵子、斎藤智子、佐々木美佐子、田中キミ子、中川泉、中野正春、橋本明浩、平澤則子:豪雪地方に暮らす後期高齢者に生涯と健康の実態

平成16年度

佐々木美佐子、小林恵子、平澤則子、飯吉令枝、斎藤智子、横尾加奈江、外立直子:豪雪地における高齢者のソーシャル・サポート・システム構築とその成果に関する研究

杉田収、佐々木美佐子、小林恵子、斎藤智子、室岡耕次、大竹朗、宮越亮、杉田靖子:地域ヘルスケア・ニーズに基づく住環境支援—豪雪地域での頸髄損傷患者用住宅提案

中島紀恵子、野地有子、朝倉京子、飯吉令枝、大友康博、籠玲子、唐沢千登勢、北川公子、小林恵子、斎藤智子、佐々木美佐子、田中キミ子、中川泉、中野正春、橋本明浩、平澤則子:豪雪地方に暮らす後期高齢者に生涯と健康の実態

加藤光宝、深沢佳代子、加藤正子、富川孝子、佐々木美佐子、田中キミ子、加城貴美子:看護職臨地実習指導者養成講習会における看護職の臨床能力向上のためのプログラム開発

## ② 学外公募研究補助金に基づく研究活動

科学研究費補助金

平成14～16年度

野地有子、中島紀恵子、朝倉京子、飯吉令枝、丸山知子、長谷川真澄:更年期女性の健康課題の分析と看護プログラムの開発—閉経周辺期および閉経後の女性保健に焦点を当てて—

平成16～17年度

平澤則子:最適化モデルからみた難病家族介護者への看護援助に関する研究

斎藤智子:介護保険制度下のケアマネジメントにおける介護支援専門員と保健師との協働

## (7) 研究業績

〔著書〕

佐々木美佐子他:2003年版保健師国家試験問題解答と解説,東京:医学書院;2002

佐々木美佐子他:2004年版保健師国家試験問題解答と解説,東京:医学書院;2003

佐々木美佐子他:看護学事典,東京:日本看護協会出版会;219-220,2003

佐々木美佐子他:2005年版保健師国家試験問題解答と解説,東京:医学書院;2004

佐々木美佐子他:在宅ケア、地域看護学JP、東京:インターメディカル;2004、p378-390

〔論文〕

岡本玲子・中山貴美子・長畑多代・斎藤智子・飯吉令枝他13名,保健師が関わるニーズとケアマネジメント過程の特徴—難病事例の場合—,日本地域看護学会誌4(1)、18-25,2002

小林恵子・斎藤智子・平澤則子・佐々木美佐子・熊倉みつ子・飯吉令枝,保健所保健師のコンサルテーションプロセスとその構成要素の妥当性,新潟県立看護短期大学紀要8巻 p17-26,2002

齋藤智子・山元智穂・杉田収・関島香代子、看護学生の喫煙行動および喫煙に関する意識と喫煙防止教育のあり方、新潟県立看護短期大学紀要 8 巻;27-34,2002

小林恵子、齋藤智子、佐々木美佐子、杉田収、関屋伸一：快適住まい環境研究会報告 第7報—住む人のQOL(生活の質)を高める住まい方とは—、新潟県立看護短期大学紀要第8巻;105-111,2002

杉田収、室岡耕次、大竹朗、杉田靖子、水嶋和美、齋藤智子、小林恵子、佐々木美佐子：介護・看護からみた住宅評価法、保健の科学、46(2);143-149,2004

〔報告書〕

平澤則子他：コミュニティケア委員会実践報告書 上越市コミュニティケア研究 委員会編、2002.10

佐々木美佐子：平成14年度まちの保健室事業報告書 日本看護協会 2003.3

佐々木美佐子：平成14年度保健所モデル事業報告書 日本看護協会 2003.3

佐々木美佐子、小林恵子、平澤則子、飯吉令枝、齋藤智子：山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャルサポートニーズに関する研究、平成14年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書、9-16,2003.6

杉田収、佐々木美佐子、小林恵子、平澤則子、飯吉令枝、齋藤智子、吉山直樹、関谷伸一、橋本明浩：域ケアにおける住宅環境に関する研究、平成14年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書、17-20,2003.6

佐々木美佐子、小林恵子、平澤則子、飯吉令枝、齋藤智子：農村地域における高齢者の生活構造とソーシャルサポートニーズに関する研究 平成14年度学長特別研究費研究報告書、29-32,2003.6

小林恵子：地域母子保健事業における子ども虐待予防・早期発見の保健師の取り組みと課題、平成14年度学長特別研究費研究報告書、85-88,2003.6

平澤則子：コミュニティミーティングで得た質的データの妥当性に関する研究、平成14年度学長特別研究費研究報告書、89-92,2003.6

齋藤智子：在宅要介護者の住宅改善ニーズに関する研究、平成14年度学長特別研究費研究報告書、93-96,2003.6

佐々木美佐子、小林恵子、平澤則子、飯吉令枝、齋藤智子：大学での保健師教育における地域看護診断の教育方法の構築、平成15年度学長特別研究費研究報告書、55-61,2004.6

小林恵子：子どもの虐待介入における保健師の支援技術、平成15年度学長特別研究費研究報告書、120-123,2004.6

平澤則子：難病の夫を介護する妻のQOL推移からみた看護援助のあり方、平成15年度学長特別研究費研究報告書、124-126,2004.6

齋藤智子：介護支援専門員が認識する対応困難事例の特徴と支援ニーズ、平成15年度学長特別研究費研究報告書、127-131,2004.6

〔その他の論文〕

佐々木美佐子：地域看護の概念、目的、機能 産業看護講座短縮Nコーステキスト、新潟県産業保健推進センター(編)、1-8, 2002.9

佐々木美佐子：在宅ケアにおける住宅改修の課題 快適住まい環境研究会第8回住ま研フォーラム 2002.9

小林恵子：住宅改修とQDL 快適住まい環境研究会第8回住ま研フォーラム 2002.9

佐々木美佐子：新潟県立看護大学における地域看護学教育 全国保健師長会新潟県支部 WITH US第9号 2003.3

- 小林恵子:障害者から学ぶ暮らしのヒント集,グループ築宅(編)、2003.11
- 佐々木美佐子:地域看護学の概念、目的、機能 産業看護講座短縮Nコーステキスト,新潟県産業保健推進センター,(編)、32-37, 2004.8
- 佐々木美佐子:公衆衛生看護活動の原則と必要な知識、技術 産業看護講座短縮Nコーステキスト,新潟県産業保健推進センター,(編)、38-41, 2004.8
- 〔学会発表〕
- 熊倉みつ子、飯吉令枝、和田佳子他:男性の育児休業制度に関する認知度と活用状況、第33回日本看護学会母性看護、2002.8
- 平澤則子:神経系難病患者を介護する家族のソーシャル・ネットワークと心理的福利からみた援助の課題、第6回日本難病看護学会、2002.8
- 細谷容子、平澤則子:神経系難病患者を介護する妻のソーシャルネットワークと心理的福利、第21回家族関係学部会セミナー、2002.10
- 小林恵子、斎藤智子、平澤則子、佐々木美佐子、熊倉みつ子、飯吉令枝:保健所保健師のコンサルテーションプロセス構成要素の妥当性、第61回日本公衆衛生学会、2002.10
- 佐々木美佐子:介護とこれからの住まい 三条市少子高齢化の住まいフォーラム基調講演およびコーディネーター 2002.11
- 佐々木美佐子:介護とこれからの住まい 新発田市少子高齢化の住まいフォーラム基調講演およびコーディネーター2002.12
- 佐々木美佐子:「人」福祉の立場から見た健康住宅 第5回全国健康住宅サミット越後雪国大会シンポジスト 2003.2
- 平澤則子:コミュニティミーティングで得た質的データの妥当性に関する研究、日本地域看護学会第7回学術集会、2003.6
- 平澤則子、飯吉令枝、斎藤智子、小林恵子、佐々木美佐子:高齢者の健康関連QOLの地域間比較、第62回日本公衆衛生学会、2003.10
- 小林恵子、斎藤智子、平澤則子、飯吉令枝、佐々木美佐子:農村地域における在宅高齢者のIADL(老研式活動能力)関連要因、第62回日本公衆衛生学会、2003.10
- 斎藤智子、山元智穂、杉田収、関島香代子:看護学生の喫煙行動および喫煙に関する意識と喫煙防止教育のあり方、第62回日本公衆衛生学会、2003.10
- 山本澄子、住野清一、水野正述、飯吉令枝、和田佳子、川久保清、井上修二:肥満と生活習慣病 — BMIによる高血圧、高脂血、高血糖の合併—、第24回日本肥満学会、2003.11
- 飯吉令枝、平澤則子、斎藤智子、小林恵子、佐々木美佐子:豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャルサポートニーズ、第23回日本看護科学学会、2003.12
- 小林恵子:乳幼児の虐待予防・早期発見における市町村保健師の取り組みと課題、第8回日本在宅ケア学会学術集会、2004.1
- 斎藤智子、西脇洋子:在宅要介護者の住宅改善ニーズ—在宅療養者とケアマネジャーのニーズ比較—、第8回日本在宅ケア学会学術集会、2004.1、
- 西脇洋子、斎藤智子:住宅環境整備に関する意識と関わりの実態調査、第8回日本在宅ケア学会学術集会、2004.1、
- 平澤則子、飯吉令枝、小林恵子、斎藤智子、佐々木美佐子:豪雪地における高齢者の生活行動と健康QOLの季節比較、日本地域看護学会第7回学術集会、2004.6

平澤則子:難病の夫を介護する妻のQOL推移から見た看護援助のあり方、日本難病看護学会第9回学術集会、2004.8

長沼典子、小林恵子、斉藤智子ほか:高齢者のソーシャルサポートニーズと生活支援の方向性、第26回全国地域保健師学術研究会、2004.10

小林香子、小林恵子ほか:働き盛りの脳血管、心疾患死亡事例の生活背景の特徴、第26回全国地域保健師学術研究会、2004.10

飯吉令枝、平澤則子、小林恵子、斉藤智子、佐々木美佐子:グループインタビューを用いた高齢者のソーシャルサポートシステムの検討、第63回日本公衆衛生学会、2004.10

小林恵子、斉藤智子、平澤則子、飯吉令枝、佐々木美佐子:農村地域における高齢者のソーシャルサポートニーズと課題、第63回日本公衆衛生学会、2004.10

斉藤智子、小林恵子、平澤則子、飯吉令枝、佐々木美佐子:農村地域における高齢者の活動能力と生活行動と関係、第63回日本公衆衛生学会、2004.10

#### (8) 社会活動

##### ① 学会・研究会

###### <佐々木美佐子>

日本看護協会会員、日本公衆衛生学会会員、日本地域看護学会会員、日本在宅ケア学会会員、日本看護科学学会会員、上越在宅ケア研究会幹事、快適住まい環境研究会会員、日本在宅ケア学会誌第8巻1号投稿論文査読委員、第26回保健師学術研究会投稿論文査読委員

###### <小林恵子>

日本看護協会会員、日本公衆衛生学会会員、日本地域看護学会会員、日本家族看護学会会員、日本在宅ケア学会会員、快適住まい環境研究会会員、日本看護科学学会会員、第26回地域保健師学術研究会座長

###### <平澤則子>

日本看護協会会員、日本公衆衛生学会会員、日本難病看護学会、日本地域看護学会会員、日本看護科学学会会員、日本家政学会家族関係部会会員、家族問題研究会 第26回保健師学術研究会座長

###### <飯吉令枝>

日本看護協会会員、日本公衆衛生学会会員、日本地域看護学会会員、日本看護科学学会会員、第26回地域保健師学術研究会投稿論文査読委員

###### <斎藤智子>

日本看護協会会員、日本公衆衛生学会会員、日本地域看護学会会員、日本在宅ケア学会、快適住まい環境研究会会員、日本看護科学学会会員

##### ② 委員会活動

###### <佐々木美佐子>

新潟県介護保険審査会委員(平成11年10月から現在に至る)

上越市介護保険運営協議会委員(平成12年4月から現在に至る)

新井市介護保険運営評価委員会委員(平成12年11月から現在に至る)

上越市少子社会を考える市民懇談会委員長(平成13年7月から現在に至る)

上越市建築審査会委員(平成14年4月から現在に至る)

日本看護協会保健所保健活動モデル事業推進委員会委員(平成14年4月から平成15年3月まで)

日本看護協会地域における看護提供システムモデル事業 スーパーバイザー(平成14年4月から平成15年3月まで)

新潟県成人病予防協会倫理審査委員会委員(平成14年4月から現在に至る)

上越市保健医療福祉ゾーン介護保険施設整備事業事業者選考委員会委員長(平成15年4月から平成15年7月まで)

上越市保健医療福祉ゾーン連絡協議会委員(平成15年8月から現在に至る)

<小林恵子>

新潟県上越健康福祉環境事務所 上越地域保健医療福祉推進会議 児童虐待予防部会オブザーバー(平成14年9月から15年3月まで)

上越市少子社会を考える市民懇談会委員(平成14年11月から現在に至る)

上越市環境影響評価会議委員(平成15年4月から現在に至る)

<平澤則子>

上越市コミュニティケア研究会委員(平成13年4月から平成15年3月まで)

<飯吉令枝>

上越地区小規模施設看護職員研修運営委員(平成14年度)

新潟県看護協会 上越地区協会監査委員(平成14年度から15年度まで)

③ 社会教育活動

<佐々木美佐子>

真宗大谷派高田教区教化委員会 講演「介護が未来にのしかかる」 2002.6上越保健所

国立療養所新潟病院附属看護学校 講義「在宅看護概論」15時間 2002.6~7

浦川原村ヘルパー2級養成研修会 講演「介護概論」 2002.7

労働福祉事業団新潟産業推進センター産業看護講座—短縮Nコース 講演「地域看護の概念・目的・機能」 2002.7

浦川原村ヘルパー2級養成研修会 講演「共感的理解と基本的態度の形成」 2002.8

新潟県立十日町高等学校大学出張講義「基礎看護技術」 2002.8

医療福祉専門学校卒業セミナー 講演「介護と看護の協働」 2002.9

新潟県福祉保健部臨地実習指導者養成講習会 講演「実習指導の実際」 2002.10

新潟県看護協会十日町地区協会 「看護研究発表」の講評 2002.11

新潟大学養護教諭特別別科養護教育実践研究 講義「地域保健と学校保健の連携」2002.12

平成14年度度新潟県保健師等新任者研修会 講演と活動事例評価「地域特性とニーズに沿った事業計画立案と保健師の活動」2003.1

新潟県福祉保健部在宅看護実習指導者研修会 講演「在宅看護論実習の展開と指導の実際」 2003.2

国立療養所新潟病院附属看護学校 講義「在宅看護概論」15時間 2003.6~7

看護研究交流センター 新潟県臨床指導者養成講習会 講義「在宅看護論実習」 2003.9

東頸城郡町村職員協議会社会部会研修会 講演「これからの地域住民の健康を考える」 2003.11

新津保健福祉環境事務所管内保健師業務研究会 講演と体験学習「面接技術の実際」 2003.12

新潟大学養護教諭特別別科養護教育実践研究 講義「地域保健と学校保健の連携」2003.12

新潟県保健師等新任者研修会 講演と活動事例評価「地域特性とニーズに沿った事業計画立案」 2004.2

国立病院機構新潟病院附属看護学校 講義「在宅看護概論」15時間 2004.6

労働福祉事業団新潟産業推進センター産業看護講座—短縮Nコース 講演「地域看護の概念・目的・機能」「公衆衛生看護の原則」 2004.8

新潟県臨床指導者養成講習会 在宅看護論実習 看護研究交流センター 2004.9

<小林恵子>

十日町健康福祉事務所保健師業務研究会 講義および事例検討助言「保健師の専門性を活かした活動をするためには」 2002.5

十日町市役所保健師業務学習会 講義および事例検討助言¥事例検討とは何か、事例検討の進め方」 2002.7

福祉住環境コーディネーター養成講座「高齢者の特性と介護」 2002.8 2002.9

新潟県看護協会上越地区協会平成14年度助産師研修会 パネルディスカッション 座長「虐待児の早期発見、早期対応—事例から学ぶ」 2002.10

上越管内療育関係者研修会 講演「児童虐待予防の具体的な取り組みについて」 2003.1

十日町健康福祉事務所保健師業務研究会 講義「保健師の専門性を活かした活動をするために—事業評価編」 2003.5

上越地区乳幼児健康診査従事者研修会 シンポジウム座長「虐待の早期発見と子育て支援の充実をめざして」 2003.9

糸魚川地域保健福祉関係職員研修 講義「小児虐待の早期発見と子育て支援の充実を目指して」 2004.1

糸魚川地域振興局健康福祉部 乳幼児健康診査従事者研修 講義と事例検討 「虐待事例の検討」 2004.8 2004.10

十日町地域振興局健康福祉部 乳幼児健康診査従事者研修 講義と事例検討 「虐待事例の検討」 2004.7 2004.10

三条健康福祉環境事務所 虐待予防研修会 講義と事例研究「虐待の予防と早期対応について」 2004.8

<平澤則子>

清里村岡野町東戸野地区地域健康座談会 講演およびグループワーク助言:2002.8

六日町健康福祉環境事務所保健師業務研究会 講演「保健師活動とエンパワメント」 2002.7

新潟県行政栄養士会研修会 講義「健康日本21地方計画を作ろう」 2002.8

清里村岡野町東戸野地区地域健康座談会 講師:2003.7

佐渡地域保健関係職員研修会 講演「事業の計画・実践・評価について—ヘルスプロモーションの実践—」 2003.10

糸魚川地域保健関係職員研修会、講義・グループワーク「住民起点」をキーワードとした地域保健活動の展開、2004.6 2004.8

兵庫県立看護師等養成所選任教員研修会、講演「効果的な教育方法について—コミュニティミーティングを活用して」 2004.8

<飯吉令枝>

上越地域広域圏共同活動助成事業民間福祉従事者リフレッシュ事業研修会 講演「高齢者の行動と接し方について」 2002.10

上越市保健師研修会 グループワーク「訪問記録の検討」 2004.6 2004.10